拾遺都名所圖會

前朱雀

九

291.6209
Ak
5

0385

拾遺

都名所圖會

前朱雀

五

291.6209
Ak
5

蔵書

拾遺都名所圖會卷之四

洛東

城南神社
大日堂
御所内
竹田里 真幡寺辻
國分寺
下鳥羽甲大王
鳴川曝
赤井河原
達摩堂 長の松
上津鳥羽牛頭天王
淀堤
龍宝寺 宇治郡

多羽
戀塚
成菩提院跡
近衛院陵
九品寺跡
久我暇
樗大路渡口
淀城 大橋 大渡
檜本
一口
善福寺 上三柄
桃山大満宮

苅萱堂
多羽瓜作
竹田街道 牛車
西行寺
石茶師
久我神社 久我社 八幡宮
樋爪渡口
水無 瀑布
川口天神
御牧八幡宮
天武帝社
開元寺

茶師堂
常念寺
勝光明院跡
竹田山王 十禪師祠 猿塚
亀井茶師
愛宕祠 御所屋鋪 本願寺
八幡山 十二景
内里王塚
御園原
伏見白玉居
立賣 花作

喜多八重子氏寄贈

伊

奈良女子大学 書庫川 平成 7.11.-9
4464 986
291.6209
AK
5

常盤井
住吉社
観音寺
大黒寺 大神社
森住吉
念故寺
有馬稲荷
往蓮庵
泉神里團店
嘉祥寺聖大
真宗院
善福寺
谷口
霧谷

伏見陵
東本願寺懸所
大光明寺 茶師堂
西方寺
明壽院
猪本町大瀧宮
玄蕃町神明
了峰寺
道澄寺
仁明帝陵
霞谷
猿丸太夫墳
桓武天皇陵
海寶寺 大瀧宮

指月 豊後橋 向峠
池懸西岸寺
本教寺
聖恩寺
光照寺
白菊井
正覚寺
西岸寺
常安寺
安樂行院御廟
履 白鬼
鎮守松
車塚
西福寺

中書嶋辨才天社
源空寺
金札宮
西本願寺懸所 暦寺
寶國寺 観音堂
蚯蚓社 茶師院
墨染桜
西休寺
石峰寺五百羅漢 稲
法華堂泉
貞観寺泉
女御貞子墓
柏原野
昇成就院

隆聞寺
大王山
田中社
金岡宅
普化墓
頓阿庵
平等院 補遺
宇治田原
真言院
栗林
巨椋神社
稚本八幡 武内祠 放生川 神牛石 安楽 大光寺 三福寺
久世神社
富野天神

八科峠
金ケ辻
願行寺
本幡川
泉舟宮
兎道里 宇治橋
法皇堂
大佛堂
禅定寺 猿丸太夫社
鷲峰山行場
伊勢田神社
五箇庄
玉蜻石
朝日山
釣月
八幡宮
龍安寺
白川 白山権現 金毘羅
栗隈天神
興聖僧婆
鷺坂 小藤峯
白釋迦

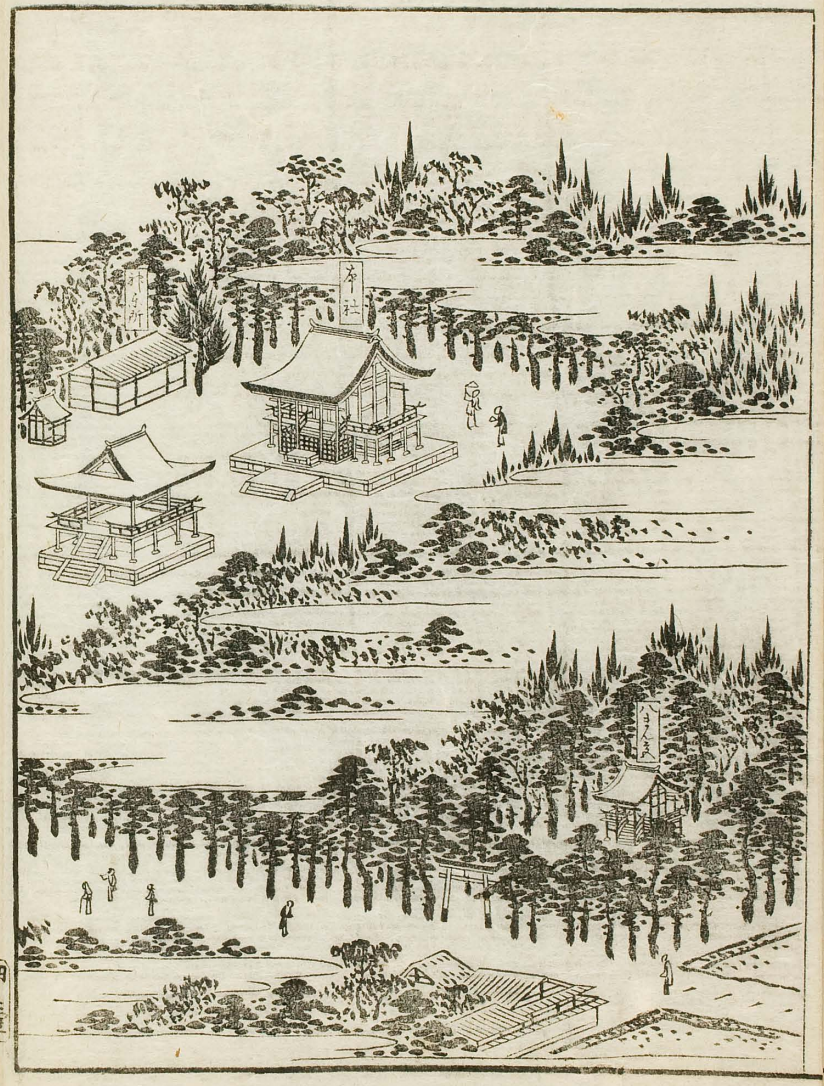
本幡開守屋舗
浄妙寺泉
渓茶師
五箇庄
玉蜻石
三室戸山
喜撰嶽
栗子山 神明宮
三宮
善福寺
巨椋堤
七ツ墳
指月塚
長沈池 十六社
椎尾山 同塚

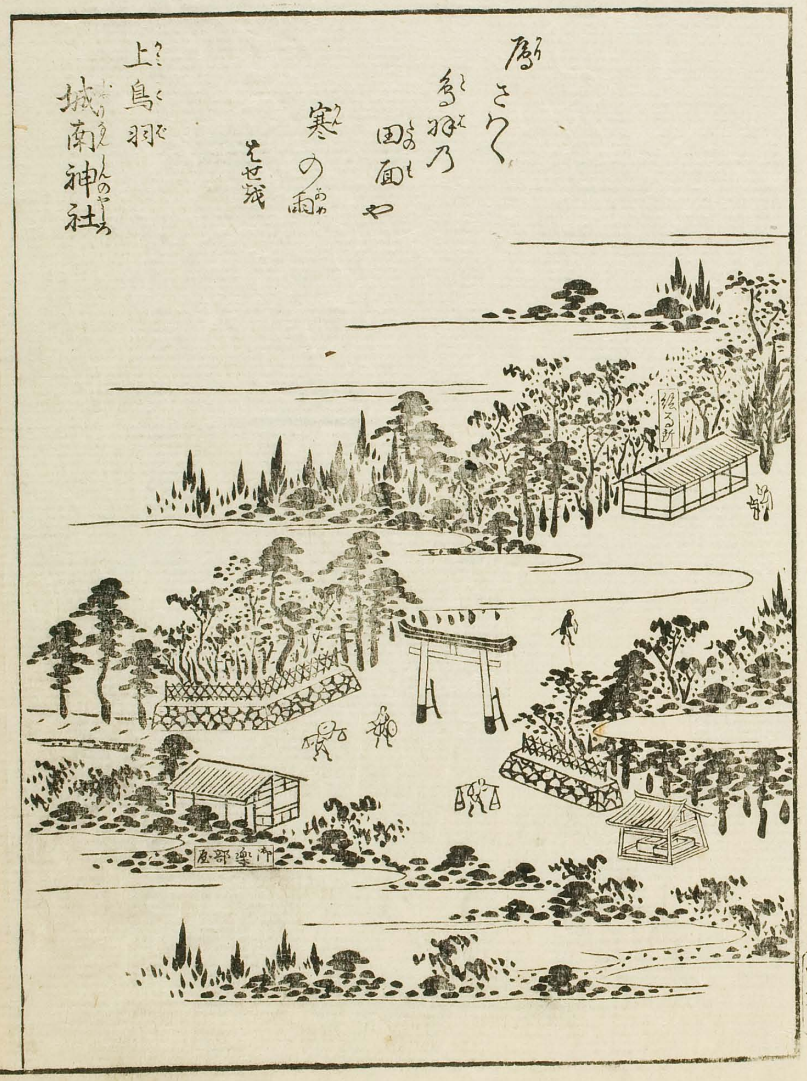
等泉寺
本幡神社
不焼地蔵
黄檗山 補遺
三室戸山
喜撰嶽
栗子山 神明宮
三宮
善福寺
巨椋堤
七ツ墳
指月塚
長沈池 十六社
椎尾山 同塚

市野辺の梵天
井出山風穴 下馬石 有王芝
神童子祠
普賢寺溪
下狗若一王子
土師
於乞預寺
上狗里 御霊社
泉橋寺
瓶原離宮 清見谷
岡田山
笠置山名石細圖
稲竈

玉水井 蛙問山 井出寺
藪
薪 神南山 茱萸堂
段々良都谷 白山權現
藏岡山大神
相樂
動觀寺 荒神石
椿井寺辨天
西村 觀音寺 國分寺 竹内大社
加茂
加茂社
笠置皇居問蹟

井堤左大臣問跡 井出川
光明山寺跡
天神森
草内
稲八間武内祠
本津川 樺井
本津 市坂 春日社 念佛石 泉井
鯉奥石
椿井里 松尾社
加勢山不動
浄瑠璃寺 郭公鳴所
栗柄大滿宮
玉川水車
鳥居里
無戸酒屋祠 郡塚
飯岡
祝園春日社 大塚
大智寺 表堂 頭洗池 泉井
陶山小男山夜討道
兒瀧




さく
多賀野乃
田面や
寒の雨
上鳥羽
城南神社

鳥羽
作り道

禁裏の調進
都へと
走る
魚荷の
具
肥さ
絵ふ
作り方
葬福

鳥羽 洛外にして四塚より南七町ばかりにて上鳥羽 下鳥羽と二村ありと云

○紀路 四塚より南の方紀ノ川の辺に出て家々の道ばかりなる街道なり 今堀川の下流の東西一壇高き細路あり古の紀路の跡なるべし 今の封疆菱の秀吉公の時紀ノ川

徒然草曰

元良親王元日の奏賀の声甚殊勝にして大極殿より多武の峯の道まで聞へきこゆ 李部王の記にはこれを多武の峯の御

続後撰 雲井花の春風の月をそとと西乃里に咲るうるう 後鳥羽院

新續古 白雲の名残れとそ咲風の多武の峯の苗まさりぐや 後宗遵務政

苅萱堂

道心堂空法師と云 上村茅町西側にあり 浄土宗にて誓願寺と号す 苅萱

野山に登き移り行く比叡山に登り雑餐し移り其後紀州高

高野山に 本尊阿弥陀佛 坐像丈六すなわち則苅萱道心の念持佛に

おかせ給ひ 遺しの人そしより星霜累を

て天正年十一月二日本堂厨に焼失苅萱の什宝あるいは

比時焼失苅萱の方竹林乃中に飛去りて安泰なり

諸人奇異ありと感ぜり 天明元年九月十六日暁天に寺

出火して本堂ならびに鐘楼を本尊も焼失しぬ 院

悲歎して方丈の中に安置

人ありて大に驚き霊験を迎に著しく

諸人現在に見るの霊瑞 信仰

如来の應験 本尊茅町如来

藥師堂

所寺町より南の方瑞光山宋林寺 本尊茅町如来

坐像三尺 弘法大師の作 本尊

大日堂

所東側にあり宗安寺 本尊大日如来坐像三尺

弘法大師の作 堂内に宝冠弥陀佛を安置 恵心僧都の作

建立の年紀詳 念持佛

戀塚

所大日堂の南 浄禅寺の門前 遠茂武者盛遠の妻袈裟御前の

由縁に茅渟 戀塚寺の所に

林道春撰 所の碑碣を立 其序銘

鳥羽戀塚者文覺為源渡妻所築也 初藤盛遠聘彼婦而無道 劫婦

之母為媒 徑母呼而告之婦念不聽 則殺母不孝聽則棄夫不義 噫

不孝不義吾生不如死 欲以身當之乃佯諾曰 請失我夫而後可 遂

從也一夕在閨新沐而卧者 即是矣我開戶而待之盛遠約去 婦還

設酒與源渡相獻酬 伏卧於奥 婦自沐 邸閨夜闌盛遠 尿到斷頭持

去 黎明視之 則婦之首也 盛遠甚哀 即為僧 所謂文覺是也 其後在

高雄遥望埋婦之處 名曰戀塚 世俗所傳 蓋妃此 嗚呼婦孝于母義

于夫節于其身 雖丈夫不過此也 長安大昌里之節女同日之談乎

秦之懐情臺以貨淮之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉

曹娥之孝溧水女之貞其碑其名古今不泯 此婦之名亦然乎彼之

戀之者在色耶在節耶不可不擇也 浮屠之有塔銘猶如碑碣也

銘曰

吁節婦兮 惟孝惟義 石可泯兮 貞名不已

正保四年十一月二十九日 羅山子撰

願主 永井日向守直清

瓜の名産は広城の狛里に
産すれども今は広多羽に化
まろ胡瓜美味のもの化
境に勝もて祭法に
夏と秋との祀に用
とあるは南史に
いく勝量とは
その五感の時毎
熱病患て寒の
中に瓜を食せん
半坂毋り勝量
四方を歴訪をれと
も傍の半紙に
時に一つの神紀
出て我に瓜あり
て一つを分て相
遺う人さまを成て
寒瓜ふりしたに

篤興を足至者
の夫に通をや
いつ変れ

初
恵果瓜
堅みや
うん
猫みや
せん

城南神社　小枝の宮　森の中にあり　當社久代神功皇后三韓退治の時勝れ給ひ所の為勧請し奉る社號を真幡十社と称す其後武天皇
喜式出雲神社　国常立尊　日本不易皇太神宮　平安城内鎮護の為伊勢石清水加茂松尾平野稲荷北野祇園
七社佛ぜて王城の四方をまもれと城南神をけ即極楽帝釈尊乃神
名公当社の神躰二体例ふい九月廿日神輿二基上る下る
塔森小枝等乃八幡宮　東の方　若宮　本社の東側　三光社　本社の西上
生土神　城南神の巽の方中洛村にある本尊阿弥陀佛の立像
常念寺
せり故に林の山の舞ふ人くらいへ林の山ふ阿弥陀堂あり則此本尊を安置
御所内　城南神の西中洛の西　二町　城南離宮南殿社舞ふ　是則白河院
鳥羽院乃西帝仙居　城南離宮南殿社舞ふ　なりやうを
小殿の安楽寿院の地又中洛村民居一町　長の方ふ一堤
地あり字成高畠　又此所の西の方一堤
字の所あり　今田畑　日七八寸　本
馬場葛蒲池　泉水等の字あり　其外龍頭前山平門院
離宮の舞殿　絵ふ　常見院
仏法はうまりうはたをふ　供せるひろ
千載　嘆しうち敷まで及れて本れるふ花も日数も積りぬる　白河院
少せ行て後せ行人々
千載　常よりもむかしまし記れ郭公忘れその山路の名こそ　鳥羽院
多武の西殿の東西の塀ふ所ふ所ふ菊植え
植えうう公重ふ人くをめて菊をせけるあ
人くふへさしうろうれて
家集　君ら住やこの塀ふ菊ぞうる松乃美くふ
建永元年八月十五夜多武殿ふ所ふ幸ありて所舟
ゆく所ふ所なとあるる月の夜ふ所のたのと
ども為ありるうし少そてさせのひろる　西行
千載　いかしへも広のまふふ月の影成るる秋乃池あ　後鳥羽院
多武殿乃門ふ南ふあるて所ふ西面ふて羅城門ふ
なり具西ふ舟着あり足ふ神崎大物浦ふ
あり又ふかしふふ濱殿ふて新大納言成親卿の別荘あり此人後寛僧都ふ
敵逆の企ある由ふ流れて左遷の時ふ舟ふ
千家物語　多武殿をを行へふ所へ所ふ幸成しふ
ざらし物をやらて我ふ荘厳殿ふてあらし拔も餘所ふ
通られとも乃南の門出ふ舟遅しふ
成菩提院　中洛村の小竹田不動院の西一町　上品大王しふ例乃序言ふ　元年六月十三日美福門院
所ふ
保元物語　六月十三日美福門院鳥羽乃成菩提院乃所ふて
山槐記曰　安元年九月朔日院多武ふ幸ありて明日より成菩提院の念佛
始行乃ふ

皆仕る
輦車の
上や
風薬ふ
衆雲

仆田街道と通る輦
牛ハ日毎ふ伏見ゟ
都へ貨物を牧せる
実暑みた夜ハ日ふ
つて牽通ふ牛の
疲さぐは要意ゟ
ふく牛ハ領ふ乃
ふしひなりそ

勝光明院　古記に曰鳥羽にありと今旧地詳ならず　元亨釋書曰保延二年三月二十二日鳥羽の勝光明院を慶す導師ハ忠尋　咒願ハ覚猷　其日帝上皇六宮百司ことごとく集會す頗る盛なりと云

古今著聞集曰
久寿元年二月十五日法皇美福門院御同車にて鳥羽乃東殿より勝光明院へ御幸ありて庭の桜を御覧ぜられけるに阿弥陀講を修せしめ給ふ

竹田　鳥羽の東なり洛陽東洞院油小路等の南にあたりて伏見往来乃順路なり　いにしへハ真幡寸の庄と号す　今安楽寿院北門少し西の御坂真幡寸の辻といふ　又旧院の外坂亀岩の辻といへるハ竹田山王宮乃社司亀岩氏の宅地ありとぞ

続千載
契りてとらん我万代の友なれや竹田の原の鶴の毛衣　法皇御製

玉葉
わか渡る竹田の原に啼く鴫の川のすかくみえて飛びつくなる　坂上郎女

堀川百首
ならひ竹田の里にふしなれて幾夜か鶴の聲をきくらん　俊頼

近衛院陵　小向不動院の東路の西側にあり前編に見へたる美福門院と同陵なり　編年集に曰久寿二年七月廿三日近衛の皇居に崩じ給ふ御年十七　八月一日船岡山の野に葬り奉る御骨は知足院に安置すと云　○百練抄に曰長寛元年十一月廿八日近衛院の御骨を鳥羽の東殿美福門院の御塔に渡し奉ると云　○享保三年大樹吉宗公御治世の初歴代帝陵の御改あり其記に曰山城国紀伊郡竹田村仁和寺御領の田畑中にあり
美福門院の旧地と云

西行寺　不動院の北にあり鳥羽院北面佐藤兵衛尉憲清此所に別館を構へて鳥羽乃仙院へ昵近を保元々年七月二日鳥羽院崩御の後出にて

落髪し西行法師と号す此刹贅塔あり仏上寺説に本尊ハ阿弥陀佛乃坐像坂安置す又西行上人旧作の西行上人乃像彼上人の肖像共に厨子に安す又西行上人乃念持仏地蔵尊を安置す定朝の作にして立像一尺八寸火災除滅の霊験ありとぞ火消地蔵と称す今浄土宗の僧寺なり

扶桑略記曰
公家近来九條の南鳥羽の山庄新に後院を建つ凡方百余町を卜して近習の卿相侍臣地下雑人等各家地を賜って舎屋を営造す宛も都遷のごとし此乃広さ南北八町東西六町水の深サ八尺風流の美勝計ふべからず

山王大宮　安楽寿院の西民居の中にあり　十禅師社　大宮の東北乃ほとりにあり両社共に保延年中鳥羽上皇城南離宮に遷し給ひし時勧請ありしといふ社頭巍々として神領あり例祭ハ神輿を渡し催馬楽走馬等あり此里長谷川氏に其時の式あり宝蔵を今四月初申日八架より祭して土人祭祀をなせし

御幸杜　大宮乃やしろの乾北間ばかりの田間にありいにしへハ西の方にそこより二町ばかり此杜にして則山王の御旅所なり

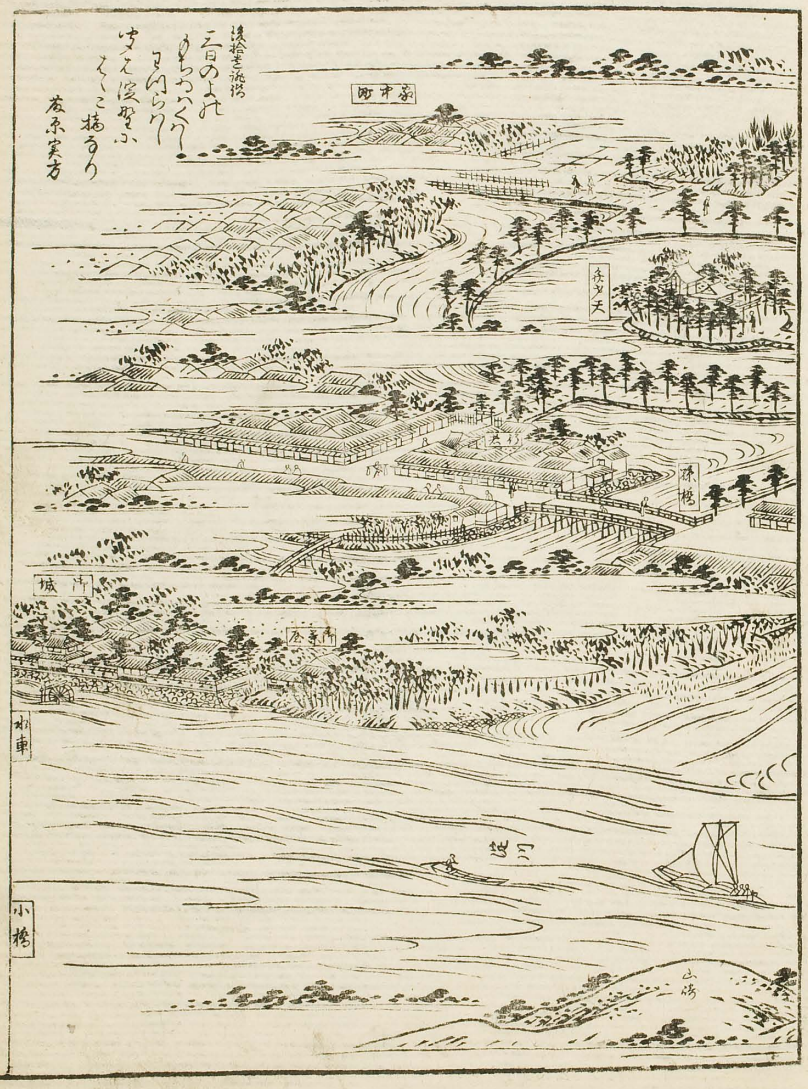
猿塚　竹田むらの端伏見へ坑にあり土人庚申塚と呼ふいにしへハ此地に白猿来て故に山王権現影向の地と云又国分寺の旧跡とも猿塚ともいふ何れか是なるを詳にせず

國分寺　竹田里高瀬川の西にあり本尊阿弥陀佛ハ春日の作にして立像三尺　是より前聖武帝六十余州国毎に一寺を建立ありし国分寺とる是けれバ又南山城相楽郡に国分寺の旧跡あり後世此所へ移したるか又其後光明皇后の御願にして国毎に国分尼寺を建てて女僧を住しむ其旧跡すたれて今ハ分明ならず今廻国の者此所へ来りて寄宿す

九品寺　旧村国分寺の南にあり○伽藍開基記曰当寺ハ本朝第七十四主鳥羽法皇御の南新田の中に就て離宮を構え其傍に九箇の寺を建て阿弥陀佛の像を安置して九品を表す号して九品寺といふ年代久遠なれバ次第に廃壊し唯此寺ばかり存すと云

石藥師は村安楽寺院の東門の小亀井茶師は村常楽寺ふあり弘法大師の作
田中天王社下鳥羽の云り森の内ふあり牛頭天王下鳥羽横大路等の
生土神と次例祭を九月十日神輿一基あり
久我畷道を上鳥羽の南の端西側より入りて塔森城往て桂川の下流久我
の渡口を紙上久我の里を通りて山崎ふいくる山中間所々なる孫
往りれた畷といふむり大内裏の作時西園寺王城ふ多る街道ふして
其名高し平記ふ云久我畷合戦の地是なり
久我神社上久我ふあり寛妻明神と号て土人生土神と称例祭四月己日三代
実録曰貞観八年八月十四日丙戌山城国正六位上興我万代継神
授くと云云 久我社當社の森城
六帖 本ふたゝみ落ぬ柴せり久我の森渡れ渡やはあしゝん 光俊
は いとたゝやも咲はる春ゝ久我の杜本ふたゝみ落ぬ紅葉あれ 大伴郎女
八幡宮右の社乃ふり御所屋敷久我いあり公家の所領其別業を
本清寺日村民居乃中ふあり法義宗ふして開基は真宿法師
山里乃民家ふ多く経宗ふ
鴨川村の名と次久家の名ふあり山所民居乃云りは桂川乃下流ふて一面の
河原ふり布を曝と産業ふて下多ふより舟人舟ふ乗り
横大路渡口横大路の町乃樋爪渡口渡水ふ至ふ
愛宕社富森にあり山ふ富森ふより東にあり一面の沼ふ
山所ふ森あり今ふ赤井河原山ふ富森ふより東にあり一面の沼ふ
桂川の下流ふ橋ふる赤井橋と云今ふ

淀京師より西の方三里ふ顕注密勘云云淀はよりみ城ふて多の渡もやはた
とうとうめくりめくりて桂川鴨川宇治川木津川多のわたりあり山渡
川とふも桂川鴨川宇治川木津川多のわたりあり山渡
めくりなるゆゑ云云 新後拾
のわりえぬ渡れ桜の綱を縄なのをくりをひく人もあり 前内大臣實
風雅
みふ人を渡さんとふふしも綱のもくもるや渡の川水 正三位 俊成
新千 五月雨ふ水ましむ綱ても桜ひろて渡乃ふ紅 為家隆信 朝臣
淀城初ハ岩成主税助の築所之其後秀吉公の作築中山所ふ行ゆて渡
と號を築事渡川の河ふあり
水垂鴨川桂川多の渡合ふて南北ふ亘く人家多り南ハ山崎摂津国路
續く水垂樋爪赤井菱川ふ作くく横大路の傍し場ふ安ふ
阿弥陀寺いみ〳〵渡の弥陀次郎山ふの乃多屋より細城ふて引揚し尊像
形り委ふ者編五箇所西方寺ふ又へう高寺いみ〳〵へを今の地より小多
あり水輪寺と云今宗の中興ハ観空法師形り
弥陀次郎宅城の地り家中町の地より山所ふ
住て漢を多に
淀渡秀吉公の作時大橋小橋孫橋紙橋ハいみ〳〵へを一流の大河ふて舟
渡しを大渡しもふ茶編ふ又へう
清少納言枕草紙云 卯月の晦日ふ長谷寺にまうはして渡の渡りとふものをせしふ
車をうりたもへて行ふ者ふ蜘蛛ふ多ふ者ふ
これでいやなりつるこのみさるふのある者ふ
のりつきりをせの渡ふ


後拾遺愚抄
二日のよれ
もちわたくり
月のらり
ゆきえ波聖ふ
くいこ橋うり
茂承実方
京中町
孫橋
城下
水車
小橋

淀の大橋
孫橋
ふごの
浜口
京中町
大橋

八幡山 淀大橋より十町計にあり此地ハ八幡宮御遷坐より北ハ大橋の南爪坂
限て悉く神領にして橋爪に守護不入の標杭建る別名男山あるひハ
雄徳山とし書に嶺を香呂峯又鳩嶺と称す山下に民家十餘町あり
此辺都會の地にして商家多し委ハ前編に見へたり

八幡山十二景

徳山霊社　洛城瑞霞　石水清涼　醍醐霽月
天台積雪　淀橋斜照　狐川征帆　伏澤落鴈
難波滄浪　山崎暁鐘　嵯峨暮烟　朝山晴嵐

頼風塔 八幡金剛寺ある所人家の裏にあり 由縁前編にくハしう

達磨堂圓福寺 八幡志水町の南高野街道の右にあり禅宗にして造営を遊執 天明三年より經營て同八年に成就を是基此地を山城綴喜郡の内乃 境にして八幡神領幣原村の内より西ハ攝葉にして細路八町計あり
寺説に曰

當宗の徒ハ雲水遊歴の僧侶なれバ兼て専禅定を修せん為に一尊
宿出て發願せしに此地を寄附ありて伽藍の境地とし又庵室一宇を施與する
もあり是より随喜補弼の緇徒ありて藥化の労に走り山林を開き溪谷を埋ミ假に
僧堂なと設く一宇の禅刹とし大應國師を開祖となし又二ツの古蹟なれバ得て
境地の西の方に堂舎を構へ霊像ハ地藏尊を安し傍の室に四来の賓客を棲し次

達磨大師像 境内の東坐禅堂に安置す原ハ此像ハ大和國片岡山達磨寺に おはしけるが年經て兵乱の時八幡乃郷に遷し秘藏せり近年 此尊像を雄徳山圓福寺に移し又ハ古跡なれハ再営に むかし聖徳王片岡に御遊覧ありしとき感得せられし所 に贈給ふ世の知る所なりしバ是に略に左の御縁ありて飢人いろ〳〵の姿を かりて悟あらせられし像を今に片岡に安し今に達磨寺と號し大和名所 圖會に見へたり又按上宮太子の 御化の事詳なり

長の松 達磨堂の西橘葉道の傍にあり枝葉四方に繁茂して笠のごとく蓋覆せり長生の義より名づくとぞ

橋本 八幡山の西南にあり大坂街道の驛にして人家の地十一町あり茶店旅舎 多しいにしへハ山崎より架を大橋わたして其東乃橋爪なりしかバ橋本 といふ今中之町と號する所橋乃渡にて山崎橋延喜式および文徳實録見 えたり今舟渡となるこれを橋本乃渡口といふ

金河 橋本の宿乃南堺にありて源ハ…しの溪より 流れて淀河に入

金橋 右の川に架る橋なり此橋山城 河内の堺也

川口天神宮 男山の西より十町ばかり川口村民家の東にあり祭神天満宮
此所の勧請ハ一條院の御宇に宇治の郷士ありて夜々出て四方を
照らしけるに男山乃かたより光あらハれて遥に宇治山乃巓を照す然の
夜もまた光れバはじ翌日陰陽師に命じて窺ハしむにかの所なれバ
掘らしむに一ツの地形より出たる沈人乃中に天満神乃御像を見
を納ん人群集して諸人の竹葦の出しを遂に天聽に達しく宮
殿を造て祭祀ありけり其時ハ長徳元年乙未五月四日なり
又後冠團院乃御宇寛宗安樂寺乃傍聖廟天神御自画乃

佛殿

幣原
圓福寺

新撰姓氏録に云て五位を今号牧なり土人生土神と云例祭
九月九日なり
御池宮の辰巳二町ばかりにあり毎年五月四日
出現の祭義牧なり
内星王塚八幡志賀の辺の内星村の中にあり内星岩田と津松井
名同頃の山なり塚の高サ四間半八十間土人曰継體天皇の陵
なりしを比義非之延喜式曰継體天皇の陵は摂津國嶋上郡なりと
帝陵御改之記に曰今摂津國嶋下郡大田村にあり嶋上嶋下両郡の堺之
牛頭天皇社内星の辰巳十町ばかり岩田村にあり祭神御霊八所の其一に
祭は九月九日
御霊社上津屋の巽十町ばかり岩田村にあり祭神御霊八所の其一に
一口寿業と云比所いにしへは内あるひは津國より宇治に至る順路なり
上津屋の辰巳十町ばかり丈左衛の霊祠と土人生土神と云例祭は九月九日
平家物語曰
比叡の睦月九日なりのるるれば北良の高良志賀ふむり長柄の雪
谷々の村々打解てあり折節差くり白浪騒しく張落て桜大て
鳴て逆巻あり早うかく疾い暑と鎧の毛もさかさまに大将軍九郎御曹司はの雲霧深く立籠て馬の毛
足波て人々の心をなんとやおもはれけん淀一口へや向へ給きと内裏へや遷
べきあの落足をや待ぐき
いかでせんと宮人下畏
御牧西一口の北爪より八町ばかりの中に多村あり嶋田相嶋東一口
ありて所の名は貫中嶋坊池江口等と比所いにしへ天子の所馬寮乃所牧
比名あり

伏見之拙
天武天皇社
善福寺

せり川村

せり川社

竹田

新後古
春くれて
ちよのおもひ道
ふみまよひて
くれぬるかぎりにふ
いつふ梅らん
家俊

善福寺

天武天皇

赤天

えんま

えんま

御牧八幡宮　御牧村にあり祭神五座　八幡　神功皇后　若宮　武内臣　春日
土人生土神　例祭八月十五日

玉田森　同所の森

御園原　御園村の巽五町ばかりにあり　天子の御薬園なり　地ばかり
足ら南の方諸村に茶　移植　後年今に於て多し

淀堤　後小松の御時　秀吉公の御時　作るなり　伏見に至る道なり約程一里

醫王山善福寺　上に極楽あり　東光院と号　初は約基菩薩の開基也
本尊薬師　仏像　二天　線十二神　将共に約基の作

脇士に天弧安亜に
後世禅宗に

天武天皇社　下に極楽あり　祭神　天武帝　此地に作鎮坐の年紀詳なし　伏
祭礼　大松明　弧燈　神輿一基　例祭八月十六日の夜にして
伏見の例なり

伏見　義倍より約程二里日本紀に俯見と書き宇治川の流水に所みて伏し湛ふのゆえ
し　呼び又伏れと書き宇治川の民村にて九郷あり
舟戸村。森村。久米村。法安寺村。石井村。尾村。小倉村。山村。即成院村。
等之　文禄三年　秀吉公　生城より町小路建築　西園より東園小国へ
喰口の地　数一百六十餘町　舎屋六千二百餘軒
伏見皇居　詳　一説作番の東南の地なり　九十一代の帝
伏見院　住み仙居　持明院と号
風雅集　八月十五日伏見に作幸あり　月の新

新たに松原に乃杜風ふゆへ　言きよく月出みなり　伏見院

松原山　秀吉公作生城の本丸の地　今は古松繁茂し
蒔贊して日弧敬乃所之

弘雪堀　城山の内ふあり国祥　弘雪の旧名之慰じて城山及び伏見乃町小路
あり　ひみ格等の名は旧号を失して　秀吉公の作時　諸侯邸乃名
弧くして所名の
字に

宇治見山龍雲寺　城山の内字にあり　天台宗にして本尊観世音
常憲院殿の作念持仏にして石川伯中守　拝領し菩寺
に安亜に　初は敦賀町にあり　正徳年中　珍蔡和尚中興して　寺
所之　大師堂　佛殿乃東にあり　之大師自作の像　弧安亜に
くく　龍雲寺の西にあり　神像　天神の　紀像　弧鎮　免　明徳
門乃僧忠菴より　授　龍山　藏　老菴の鎮守　霊　弧　嵌　永元年に神　景　同
月　寺乃　ひみ　を天神乃作　社を　ちて
俗に山の天神と称す

桃山天満宮　乃　月　霊　弧　嵌　応　永元年に神　景　同
例祭六月廿五日

護国山開元寺　江戸町にあり　禅宗にして　黄檗山大鵬和尚　禅創　本尊
高野山　本食恵昌上人乃開眼　東山院等身乃　縁あり　紀列
故に安亜に　弧安亜に　祈禱の秘府　善導寺に　安産
乃霊瑞多し

立賣　桃山の南東西に通る街　弧に　此南に低くして　山の方高し　故に
氣地中に周て清本の　弧　咲幸早し　此所の民家多く　法華と山畑に
化を流せ日多に　乃市に生して業に
足風土の　しひたべし

伏見より大亀谷坂
往て大津へいでる
道は秀吉公伏見
城の時より開
初し今も関所の
列侯吾妻へ往来
しの人馬を
此道と通る
東海道より
近きなり

都うつるふ
去年の蚊
うらぶく
桃の花

鬼貫

刷工 陽本新清

伏見城に龍雲寺のやしろ方十町ばかりに数千株の桃花あり孫甚の筆にかゝる色彩の色彩あり宇治見山よりの眺へしほふしてやはり宇治川をくだる紫舟小舟入江の水鶏多ねは行田のもり人淀の城八幡山嵐の翠壁もまた眼下あるて驚人乃心故動しくる

宇治見山

龍雲寺

叱咤時移霸業空
百年萎萎動春風
金湯變作桃花塢
遠近霞照千里紅

東涯先生

本堂

観音堂

仁王殿

桃林

天橋

南二陽木新編

常盤井　御香宮の南常盤町にあり左馬頭義朝の妻室常盤住前に所
世に伏見ときこえしとかや双帝あり後人これによりて名づくるなり
平治物語三曰
二月九日の暮に入て三人乃れさまかえて人をさゝげて侍あるへきを参り
々れ母にも参らせんとおもいくれを免の人つくりの御ぞうをも具せんし
てハッかの令旨をはさみたる立さくたものしるしを
みるしるしを懸ぶくれ侍うしなかの宿坂出足にはかりせんたるとり
仏の中にてあわれるし中略宇多郡坂ちろさせたる大れ左馬坂さぶ
侍南坂さしてあゆみ給へ中略十日乃朝さちに宿とのつゝ給
をご社もをそをたかまくろ風芝のこゝろに足に洗して血にそむをそも
こゆへとすその神さへ人去はまくろ〳〵〳〵伏見の叔母と号ぶ
いかへ原氏の大将の方おじ〳〵ひし時
謀叛人の妻ふしとうしたうはさ〳〵やひ〳〵物語あ〳〵うして侍
しかしも〳〵ふ〳〵立者べき所もすけまいあやしけるの戸に行
しみ思うらう女立出て侍なりくゝ世ゆ侍ぬ舟乃藤ふと
てうたたくたれたしらる甲斐もうたく命はてをうるけさを
菅笠の七鞭とゝ人をまるしさ今者も三鞭みたく伏見の星
ゆ夜を明し出まこを給て太幡山馬をあ〳〵ゝ歩行みそも君をゝ
一説に常盤井は仙石谷傳老寺とい
伏見陵　元林寺町内太閤院の後にあり後花園院の御母嘉楽門院信子の墓
定卿の妻なり後土御門院乃御母なり

山長

寺の建立して
今御陵より
土宗百万遍に属す
指月　江戸町より西の地名とす此所伏見の勝地なり
坂を上て宇治川の流れ
乃ゆきくあり西を愛宕の巨嶽北江海くしてかゝ星の水
面なり明を愛宕の悠々たるみを無雙乃景色あり
つゝ青質の悠々たる秋月澄暉の蘭々たるを賞する地
指月の西にあり秀吉公の御時向嶋に大友豊後守乃家あり
豊後橋　指月の西の橋を柱橋とい
向嶋　豊後橋乃南の民家の地をいふ右は巨椋堤にいたる
左は槙堤にて宇治の至は双方の堤秀吉公の御時設る所なり
中書嶋　豊後橋の西にあり文禄年中倭の墨坂築とい
乃地なり慶長のとし免伏見城と共に滅亡せりそれより
年久しく慶の地となりし坂近年町となりて
江戸神橋に準ず家の船坂とぐ免場柳の陰に艪をめぐらしあるを
歌舞の妓婦花乃ごとくふ袖坂飄し琴三弦の若い月れゆへ
辯財天社　中書嶋にあり真言宗にして醍醐三寶院に属し長建寺と
号に紀天女いい弘法大師の作いへい霊験道にて宝永
年中隆心和尚今の如く再建せり毎年六月廿五日に参詣の
住吉社　社あり大太の古松あり形蟠龍の如し
東本願寺御坊　佛堂お町にあり慶長又本の草創にて本尊は阿弥陀
聖徳太子の御位立像長四尺ばかり東本願寺の
番所あり寺内に安置次に石塔
定次が墓あり

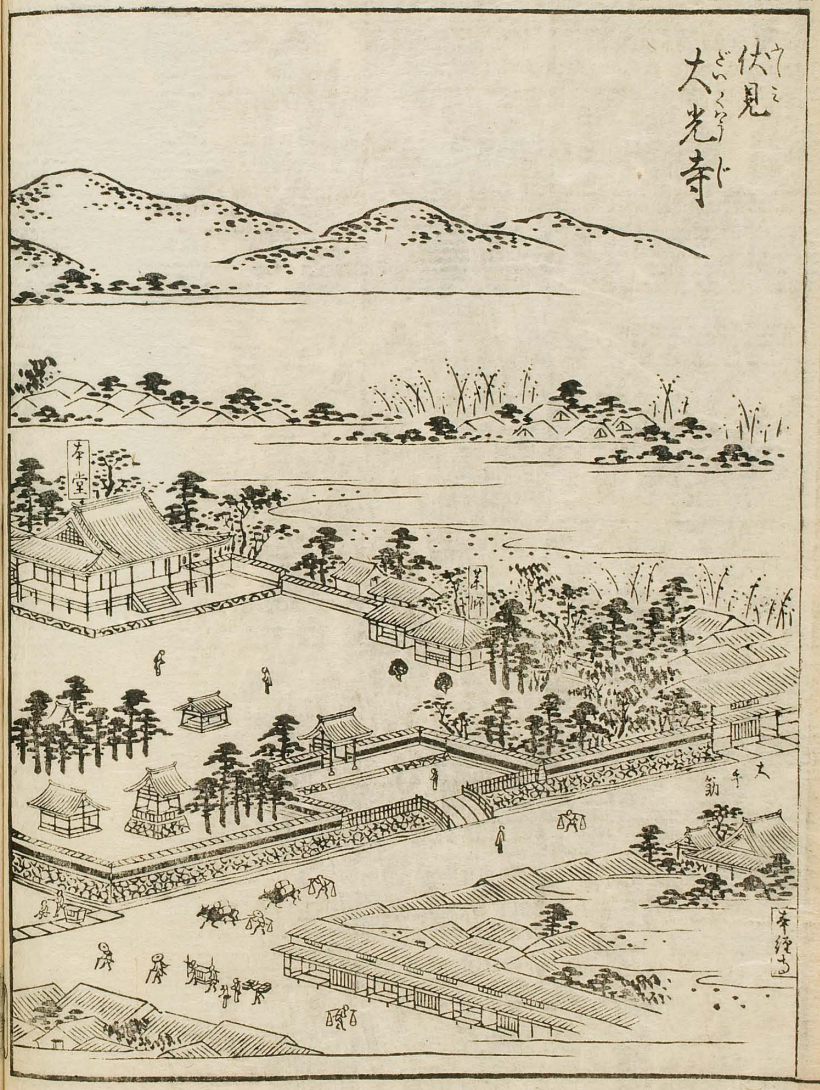
霜露天涯墜
苦來侵鬢毛
坐驚年序早
獨對月明高
孤館冷殘酒
故人寒贈袍
鴻書過未達
尚向客中勞
南郭
本堂

指月山
月橋寺
桜堤

油懸山西岸寺　下油懸町にあり浄土宗にして知恩院に属し本尊は阿弥陀佛なり又定朝の作之像二天同基の雲海上人西蓮社
浮譽と號し山文字成
油懸地蔵　門内の小堂に安置し地蔵尊の石像長五尺仏の洋
願ある然登油成仏像に灌
足せりむかし商人ありあり時油
門前に油を流し周章し擔補
成ねばれば餘弥
只呆然として居らず暫くしてほくくと人ゆうの
去りしかど害あるんん帰
油成石佛に灌て一念乃弥親
日々に栄て大福長者となりぬ是より世に伝へて願成祈の
今なる成霊験
源空寺　新大黒町にあり浄土宗にして圓光大師の舊跡二十五箇所の其一
みして第十五番の霊場と舊は醍醐の奥炭山の光堂法然上人
同居し後人旧寺乃ありし
桑生光明寺の沸
観音寺　同時の作観音寺町にあり本尊観世音は立像一丈五寸とす寺記曰常盤御
の守本尊なりと今真言宗の僧住れを守
大光明寺　大手筋にあり浄土宗にして洛東黒谷に属し本尊阿弥陀佛は嵯
の作にして立像長三尺解脱の阿弥陀佛一躰方丈に安置し坐像
二天寺詩にして五劫思惟の相を作者は善導大師の作體は仏作
尊像例年十夜中は本堂乃る像と入慶厨子に安置して法會成

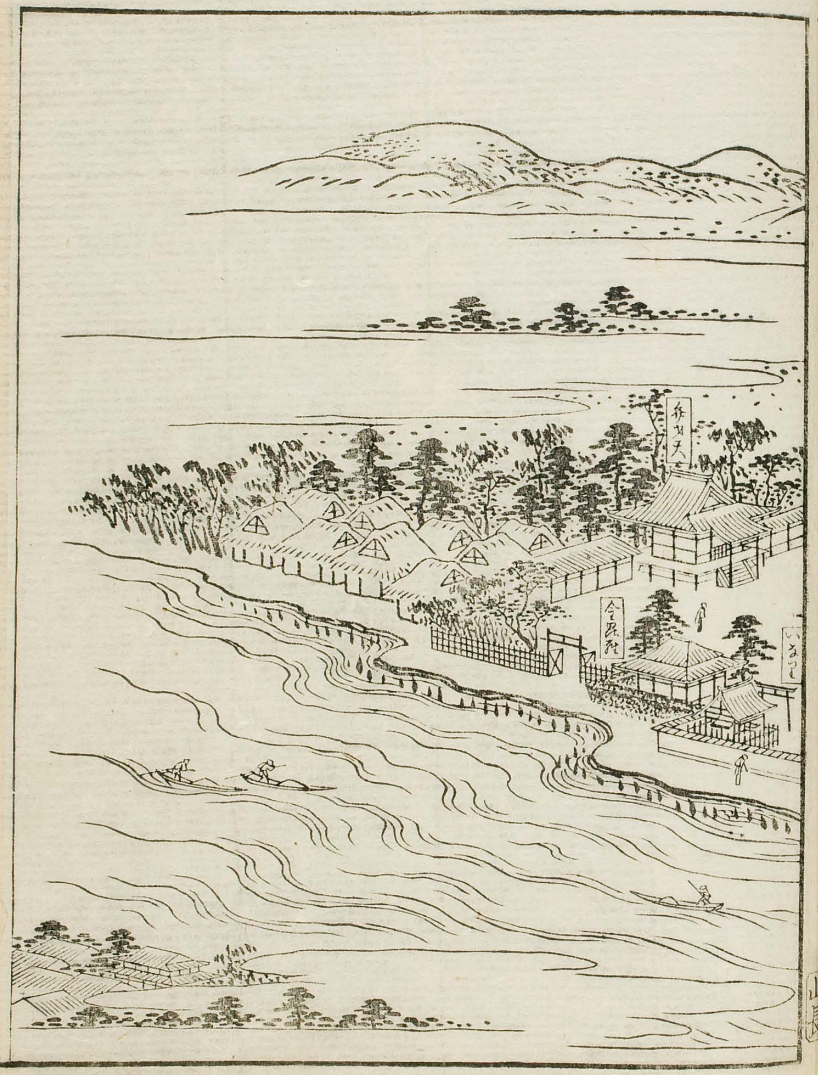
執行を故に樂師堂門内の東にあり仏名の像は毎日の作なり毎月常茶吹
十夜佛號　後町にあり法華宗にして洛の本法寺に属し
樂師　舞楽の家にして市店多し
本教寺　同基は昭受上人福昌山と號を
金札宮　寄面町にあり祭神天竺王命一説に牛頭天王
城山に遷して守護神とし人慶長の
秀吉公
を例祭は九月十五日
大黒寺　日町西側にあり仁和寺院家尊壽院に属し本尊大黒天は弘法
是古の作服士に不動毘沙門を安置し脇壇に観世音を安置し
の作なり慶長年中に創
天神社　作中町にあり兼務氏寺
西方寺　の左に祀れ祈禱所
聖恩寺　京町五丁目の東裏にあり禅宗茶碗祖にして無本寺
本尊は釋如佛
西本願寺　新町七町目にあり
懸所　勝竜寺
森住吉社　住吉町にあり大神社と号
明寿院　年中森村乃氏家成仏地
本尊は青面金剛を安置
光照寺　革屋町にあり浄土宗にして知恩院に属し本尊阿弥陀佛は運慶の
仏同基は晃譽上人文禄四年の草創
安置に仏心を慶千の
弥陀と林を畜るの縁起あり

三福寺
鐘楼
北殿
西法寺


伏見
大光寺
本堂
茅門
文殊
本統寺

伏見中書嶋
辨財天

遊女町



伏見京橋
住吉社

松葉し
安紙
きみよし
の
名本立
班竹

山長

寶國寺 駿河場にあり浄土宗にして知恩院に属す本尊阿弥陀佛を安阿弥の作引接の相の開基は園誉上人

観音堂 門内の右にあり脇侍観音勢至を立せり本尊足に香板履をはかせ傍に延鎮の作なり東清水寺と同時の頃田村将軍の寺本尊を後世に江州観音寺の城主佐々木家に安置し其後當寺に奇附せり霊験いちじるしく

念故寺 羽の法會に諸人参集して門前に市店板錦敷

聚楽町にあり浄土宗にして知恩院に属す本尊阿弥陀佛は傳教大師の作之開基は頓誉西堂天正十八年の草創

天満宮 錦小路町にあり本名は菅原町という此地起女町と今荒廃して絶

白菊井 板橋七軒町にあり此所の地名なり

有馬稲荷社 墨染山本氏守護

左神宮 茂森玄蕃町にあり

正覚寺 墨染の恵心の作之脇侍地蔵定朝の作之ちなみに安置

墨染橋 今墨染寺庭にあり所之むかしの墨染橋は是より遠き艮の方之今詳なし

世継物語云

今はむかし園融院くれおとしはて墨染橋おりろうきは

行て人のをやるとて実方の中将

墨染れ衣うらに世の花盛折りてもとりてもとりてみるべく

又墨染寺の什宝は太閤秀吉公玄冠の畫紀あり長谷川等伯の筆なり

紀伝の上に秀吉公自筆の和歌あり

あつれて人色多紙さくる櫻本の花れ風新墨染みてく

此所に細川玄旨の詠ありて自筆の短冊寺にあり左図なしを抹て紀漢に用ひ給へるむかしの此所も墨染の郷中なりしに墨染橋より地名となり則京師より伏見街道にして茶店建続て常戯場なり

橋詰町とする餘は新編に見えたり

種蓮菴 花の森面の名所おのおの傍陽佛光寺懸所にして近来廃して所之未堂舎の建立なし

了峰寺 日所舘南瓜にあり禅宗曹洞派にして傍陽宗仙寺に属す本尊は釋迦佛開基は月堂和尚

西岸寺 中之村町にあり真宗にして西本願寺に属して開基は九條小國左遷の後玉日君は此地に住し村田采女に遺を往生し聖人四歳の時采女聖人乃教化なりけり剃髪し有阿弥と名乗るを建立

草鞋影 親鸞聖人小國經田の畦茶園右乳母紙縒人新像なり形見として彫刻し有阿弥と名乗り計たる念珠右に杖を携草鞋を履て歩行の人像之臺坐に山岳乃形板摸也

玉日君墓 堂乃南に

西休寺 駿河場にあり浄土宗にして知恩院に属す本尊阿弥陀佛を毘首羯磨天の作之引接乃相にして傍に引乃弥陀と称に開基は板東尚

草創なり

京の
小町
よ
賞
くるやら
夜
玄来

源氏の
かるた
園
安名れハ
源氏の里
園屋店

源草里 [illegible] 山を限て西は作田里南は墨俣小い榑荷を限るまれ
鶏の名所にして古人の歌多し
新古 来は前編にはくはし
そしの人身をうる茶の林の奉るのあり市や木枯乃風　家隆
続古 源草や誰古江と志く祢とも むり志れぬ志ろ之　土御門院
此里乃名産は土瓶風爐其外土工の類瓦師は云うしのあれとあり
一村古れを産業とし之蕃椒の粉は圓をいひしへより此里の名物にして
世に名高し
道澄寺 源草筋遠樹小六町目にあり本尊地蔵尊は行基の作にて立像
長五尺ばかりいにしへを法堂巍々たる此るの様は今大れ圓
宋乙寺にあり則寺なるの銘を鑄出す者に大れ名所舎利へくら
此寺今律宗にて好法師あれをもちは
常安寺 旧所にあり源土宗にて本尊阿弥陀佛は門外の南に小堂
十一面観世音は安奉に行基の作之又脇侍ふえ三大所自作の傍
地蔵菩薩の作を安
石像五百羅漢 源草石峰寺後山にあり中央釋迦牟尼佛長六尺計の坐
像にして周に十六羅漢五百の大小子圍繞し輝尊霊鷲
山に於て法を説給へ人体相ともに羅漢乃傍におのく長三尺計りなれども雨露
霜露るし紀年安永の半より天明乃こしに至りて約莫成就に光
画工寂中老石面に
圖して指麾
嘉祥寺 旧所僧房村の西にあり本尊は聖天尊は
安奉に中興空心上人安樂乃院再建の時西乃方竹林の側
井澤

井中より堀出せしに霊験いちしるくして常に諸人絶をいはへり當寺乃封境
廣大にして伽藍巍々たり仁寿元年二月仁明天皇清涼殿に招請され
嘉祥寺と しるし給ふ由是德實録に見へたり今山地に諸堂房舎乃字の
地多くあり是こそ嘉祥寺の旧蹟なり
仁明天皇陵 今洋寺後帝陵に改記曰源草安樂行院の内に一堂あり是
陵なり又骨堂なり又源草法華堂乃旧蹟なり
文德實録曰嘉祥三年三月巳丑仁明帝清涼殿に崩を時に皇太子殿を
下て西陽殿の西なりの庭乃倚廬に御をしえ
續日本紀嘉祥三年三月廿一日癸卯天皇於山城國紀伊郡源草山の陵に
葬す遺勅して葬送薄し綾羅錦繡乃類なし泉布施はそなれに代る
鼓吹方相の儀なしく
停止に従ふしえ
安樂行院御廟 旧所堂前南向にあり後陽成院中和門院の御骨は此
乃御女帝陵記曰後陽成院廟塔泉涌寺にあり
元和三年八月崩
法華堂 旧建にあり南向にあり高院の西にあり後世真宗院の北旧にあり後世真宗院
石塔あり六枚の藏石なり今安樂行院内あり法華堂は天子の御骨を
収らる所之後源草院。称光院。後土御門院。後柏原院は四帝の御骨はなし
事皇代記明應記二水記等に久しく御廟は泉涌寺にあり
玉葉集
芝の下乃とろくしるけ行ふ御堂へ参り侍るそあれもなりくとい
やらまそおもひはをけ
源草や露ふきつくる乃をとろ苔の枝そろもそれゆく

真宗院

安樂行院の云ひしかあり浄土宗にして西山派深草流義の本寺
なり佛殿の本尊は阿弥陀佛の坐像にして長四尺ばかりの石日
佛殿の額は龍護殿と書して二重垣根の間にかかる又祈禱の額は正面
唐戸の上にかかる又真宗院の堅額は堂内外陣の中央にかかる
後深草院の震筆なり

通西軒

佛殿の云ひしかあり此庭に女人男の形紙許さだして藩屏を
隔前に大男外相の云石あり是當寺の別院なり
佛殿の額西向にある本尊釋迦佛坐像一尺餘にして宝冠の
相なり脇士は左に迦葉右に阿難紙安置に

經藏

鎮守社

稲荷　愛宕紙　當寺は後深草帝の本願にて
開山は園空上人に寶治年中に草創にて初の地は此れより二町ばかり
坤の方今民家の間に有の所にて具所は長六尺ばかりの五輪
當院中興は誓願寺の龍空上人　石塔あり園空上人の塔なり
にして今の如く再建あるなり

霞谷

南は谷にまでの地より真宗院に及び
古今　草深の谷ふかきに照れかれしかるあはれ　文屋康秀
玉吟　おもひやは苔の下にを出てかれ霞れ谷の春の夕暮　家隆
夫木　深草の霞の谷ふかきにかれる雪のうしたにうもれつゝ　鎌倉右大臣

戸波関と寝ぬや書乃谷れ塀

伏見院陵

帝陵記曰深草の谷に葬る骨を日所後深草帝の陵法華堂に藏む
今安樂行院に焼骨を申伏人ふし火葬所法華堂も未だ焼ずに云
後伏見院陵日記曰後城野に火葬しまを骨灰深草に法華堂に藏む今此所
も申伏人ふし定まりにと云

履塁

安樂行院の西僧房村申西の方宇町計にあり真言血脈抄曰聖宝尊
師深草野に住かて病に脱し升天し給へ聖寶傳曰延喜九年四月深草
晉明寺にかかて病に脱し升天し給へ其時　左上皇行幸しまつる
日本七月六日聖宝尊師入寂に

貞観寺舊地

今の石町の北方二丁聖深寺の地貞観寺なりしを二代實録
曰貞観四年菊祥寺の西院故に貞観寺と号に云
寺の祖願知の孫祐願の長男延正の開く所之此地も東山勝久
嘉祥寺の御境にて本堂の礎上古の仏壇石なりなり仁明帝より

善福寺

は鄉石町にあり鎮宗にして東本願寺に属に開基東山勝久
嘉祥寺開祖真雅僧都に住附属あり藥師佛當寺にあり

猿丸太夫墳

石町の西田間にあり此人生死さらるるに後一丁深草土蓋師
として和歌の道を学ぶ代獨歩の奇

鎮守松

は御高山の内南の方にあり本祥寺の鎮守の神本之又此
東に戒壇にあり所あり授戒堂あり旧地

女御貞子墓

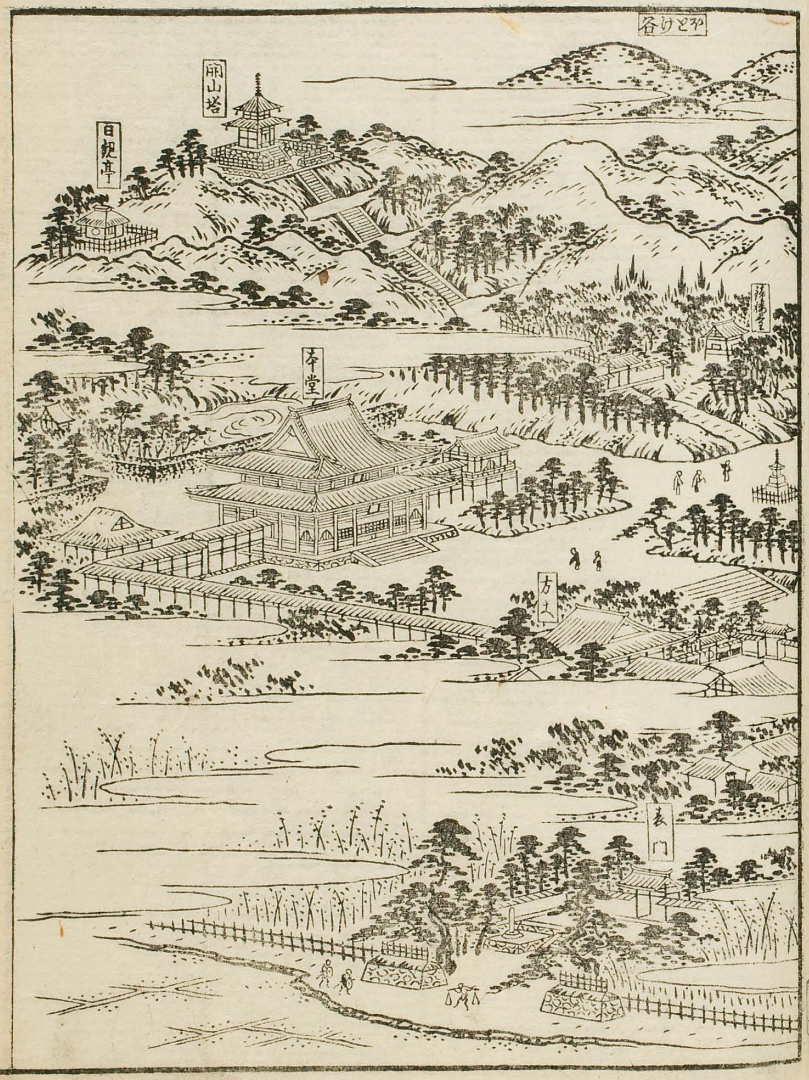
今詳なる後女帝は仁明帝の皇妃之三代實録曰貞観六年
六月三日仁明天皇の女帝正二位藤原朝臣貞子薨を勅して
從一位贈り内に葬ふ深草に云

谷口

兆域の内に葬ふ深草郷云り南にあり此所伏見より大津に至る佳道之
深草郷に至る喉口なれば谷口といふ

淑草
安樂行院

嘉祥寺
聖天尊
本堂
表門
表門


谷ひとけ
雨山塔
日枕亭
本堂
方丈
玄門

深草
真宗院
裏門
浴室

桓武天皇陵

延喜式曰柏原陵は平安宮の北に在り桓武天皇なり山城國紀伊郡にあり兆域東八町西三町南五町北六町丑寅の角れ二ツの岑一ツ乃谷坂加人守戸五烟とぞ　江次第に曰稲荷山の南れ野

拾芥抄曰伏見山に松原の中なり

山槐記曰伏見山に松原の中なり

編年集曰桓武天皇諱は日本根子皇統珍照尊と山部親王とて光仁帝の第一乃皇子なり延暦二年都を山城國平安城に遷し同十二年十月廿一日都を山城國平安城に遷し同二十五年三月十七日崩御

類聚國史曰延暦二十五年三月辛巳天皇崩ぬ葬を柏原天皇と號ぞ

葛野郡宇太野に在て山陵の地とす其時西北の方に大井地藤小野栗栖野等の山々あつて共に焼畑の烟四方に満く京中を覆ひ山陵の地かたを神に祭り疑くを是神威災殃致とるとして即ち放逸もろもろ果て其祟あり上曰い初め山陵を定むるとて筮に從て亀に從て今災異頻に来るは慎さるなんやとて祈禱をしむ　桓武帝を今の京城を開れ移し奉るみ

平安城百王の冠とる今時一千有餘載乃星霜を歴れ

とも遷都うたいまぞ中華にそのため城聰に白麟

黄龍乃瑞はあらざれとも天下の四民春平の化に浴し幸み

皇城の市に都會して雑貨を交易しあるは雲水の勝を訪

て神窟佛閣を観ることを皇德の彰明みて天慶

の齊を億年を彌らんことをぞ願ふ

車塚　右陵より爰の同一町計の岸にあり是天皇葬の風輦を藏る所なりと今堀平て畠となるとぞ云へ

神輿墳　谷口民居の辺り一町ばかり大塚の西にあり云嘉祥寺鎮守

乃神輿なりと

柏原野　谷口の西北野と又柏原と号に陵を柏原陵とも

霧谷　谷口の辺りに延暦十四年八月天子柏原野に狩ある由類聚国史に見へたり

福聚山海寶寺　観世音は大清國南京人鐘聖王の化の脇士なり尊

虛空藏　右に將軍地藏を安置に共に化佛墓は美濃山十二世果堂和尚

濃山二代乃張居所なり円山十三世竺菴和尚も此人張居して當寺二世なり法嗣に黄

大清國江湖別府德馮縣乃人姓を陳氏とて

火光鏡　南京乃傳来して當寺第一の什寶なり

鎮守天滿宮　菜神社自然の尊像なり安置に

霊験いちぢるし

谷口

桓武天皇陵

西福寺　苔森乃ゑ〜大亀谷新屋町にあり如意山光巌院と号し浄土宗にして知恩院に属し本尊阿弥陀佛は聖徳太子の作にて長三尺八寸なり
東照宮より境地を拝領して草創ありしなり
釋迦堂　堂前に宝塔の安置あり天竺目蓮尊者の作にて開浮
堂内乃尊像なり。當寺の記に曰人皇九十六代の帝　光巌院
仙居あらせし所なり　御製あり
五くりけの名てしられいと名ゝ乃ゝ身ゝを袖ゝも濡ゝて　光巌院
牽詣　光巌院禅定院伏見の奥光巌院と唱し幽閑の地なりと云
即成就院　藤森の東と小坂の二町計なり大亀谷小寺町と云律宗にして
泉涌寺の門法安寺乃系末所といへり伏見寺と号しく今乃
江戸町乃旧名即成院村なり寛治年中正四位修理左夫後綱の建立なり
則後鄉朝臣の石塔あり白川院の皇女宜陽門院先帝乃菩提のため光
下野國那須庄成当時ふ寺附しゆゑ文禄二年
伏見城を築ゆゑ此地にうつる
隆国寺　大亀谷乃ゑ宇治道の南みあり亀山と号し法華宗にして
開基ハ洛の本能寺日蓮上人の法華勝劣派の學室なり
八科峠　佛國寺乃かゝる土人八幡峠と云
名義詳なる
木幡関守屋敷　六地蔵乃西小の上ふあり今字ゝ乃ゝ是ゝ
秀吉公伏見城を接ゆゑみ本幡乃関路城外の民ふ中く
往還の輩城中伏見ゆゑ故ふ
今乃道筋なり
千首
まハとゝや本幡の宮乃名ゝ〜け都れゝとゝやゝ名ゝめる　為尹

等泉寺　大亀谷敦賀町にあり本尊阿弥陀佛は憲心僧都乃作なり
長へ伏原乃坐係之開基ハ等超禅師中興ハ園西十德今ゆ僧是ゝ
天王山　日所佛國寺の山號之則山ふを天王山と號とる末ハ開基高泉和尚と
中ふ年ゝるゝ佛面を拾ひ人ゝを山ゝ乃ゝ山ゝ名ゝ伏俳個せゝ
ゝゝ見せゝ支解ゝ支解ゝ乃ゝ伏探帰ゝ名ゝ
合ゝ天ゝ乃ゝ全解伏探ゝ乃ゝ其時佛師を呼んゝ命ゝして修造ゝ荘厳せゝ
其打ゝ天ゝ大ゝ師の作ゝ其ゝ時ゝ伏見城ゝ内ゝ
ゝ武ゝ士ゝ登ゝ山ゝ伏ゝ免ゝ許ゝ公ゝ勢ゝ
ゝ國ゝ方ゝ乃ゝ武ゝ士ゝ登ゝ山ゝ伏ゝ免ゝ許ゝ公ゝ勢ゝ
ゝ當ゝ山ゝ伏ゝ免ゝ許ゝ公ゝ勢ゝ
ゝ高ゝ泉ゝ開ゝ基ゝ
ゝ世ゝ人ゝ
ゝ家ゝ
ゝ堂ゝ安ゝ置ゝ
ゝ故ゝ
ゝ後ゝ水ゝ尾ゝ院ゝ勅ゝ
ゝ建ゝ
ゝ寺ゝ
ゝ高ゝ泉ゝ和ゝ尚ゝ
ゝ第ゝ五ゝ世ゝ
ゝ八ゝ幡ゝ峠ゝ
ゝ十ゝ六ゝ日ゝ入ゝ寂ゝ
ゝ佛ゝ國ゝ寺ゝ

木幡金辻　六地蔵町より宇治ふ至ふれの辻ふ六地蔵と云ふ後世の異名ゝ
乃ゝ上ふあり今開ふ守屋茂旧乃六地蔵大善寺の西ふ
平治物語曰
明十日乃朝右馬門尉業景と云ふ侍士伏めして都の方ふ向ふ
業景馬ふ乗て行木幡峠ゝ
舎人竹澤と云ふ者所ふ火ゝ付て後禅門奈良へ

法妙寺旧蹟 六地蔵町より宇治道乃右一町餘みて又東へ入る来二町をらあり 本朝文粋に載せる法妙寺に遊び白道長公乃建立せ

新後拾遺集 後迎法院白みまりて法妙寺に遊りを紅葉乃常みを日野の

本幡山君るゆ紅葉をいたりをとる藤を悲しき　高階宗成

本幡神社 本幡里路乃北にあり 柳大明神と号に

或記云一名山城乃半の頃小半乃頃に死うせ乃れど郷民神々に祈会しに験なりし後に迎衛殿へ参りて七年祭祀

やりしに仲に云ふ所乃神祭伝くるつそと所乃あり柳明神はまに

と参人行しに祭祀て参せられし祭神殿に棒けやてりたちまち

仕るとひ止て伝へくる

なのりてこそ祭る柳の神おれば去めるをうしとこんいさらめや　迎衛應山公

口中社 旧所民居の北一町計林の中にあり

尊勝山願行寺 本幡里にあり本尊阿弥陀佛は天照太神乃告命にもとづく

中本幡流義の宗祖聖姓を若狭氏にして衣笠大納言定能卿の孫なる

定親の子之法然上人滅後相別流倉之明寺乃祖良忠上人を師範して一宗

乃要義を修学しスケ祭経て洛に帰て仕祭草創して本幡山尊勝寺

と号にそれる年経て荒廃におよしてを十九世深誉上人天正年中に中興し今

乃如く殿祭改て再建せしなり

濱薬師 同所里乃東にあり村上寺と號を本尊薬師佛は海濱出現仕

之像七寸又傍の小堂に観音祭安置に開基不詳

不焼地蔵 村上寺乃南半町にあり 往化院と號を本尊地蔵菩薩乃

坐像七尺計伝云いにしへ所用材乃時仕る像死んで林中に坐

を四方者瑞祭感して信人賜し故に不焼地蔵と称を開基を数山和尚

曹洞宗にしをさる

金岡宅 傳云画工金岡巨幡に住しを宅然今詳なる祭金岡の傳に云光孝

天皇乃御孫にして姓を紀氏諱は園深號は普天子又朝日阿闍梨

とも宇多天皇仁和四年勅に依く所乃障子鴻儒乃像祭書に

旧記に曰

賢人聖の障子は南殿にあり 八間各四人 東四間にて一間 馬周 房玄齢 杜如晦 魏徵 伊尹 傅説 仲山甫 蘇武 倪寛

二間 諸葛亮 遺伯玉 張良 管仲 劉禹錫 子産 第五倫 太公望 仲尼 三間 蕭何 四間 太公望 仲尼 蘇武 倪寛

西四間にて一間 李漢 虞世南 杜預 張華 二間 羊祜 楊雄 陳寔 班固 三間 酈食其

四間 董仲舒 賈誼 文翁 孫通

平家物語曰乃熱湯殿乃畫圖の障子にもとうて金岡の書くらし遠山乃

有明の月もそなとう

本幡里乃西にあり宇治川の支流にて六地蔵の

東にて又宇治川に入一説宇治川の流をなり

本幡川の

拾遺 本幡川出てうつひ言の葉もそれ名をもとむ流つせしも　よ人

玉葉集 いふせん人乃心い本幡川月をふれしも濁らせもそ　家隆

本幡川

五箇庄 木幡より黄檗に至る間を云ふ 四方に五ツの庄あり山階庄 小野庄 木幡庄 伏見庄 宇治庄是なり

黄檗山萬福寺 五箇庄の南二町計 大和田にあり 萬福寺乃由緒編纂しるす 創建の沿を地名紙英樂しるす 萬福寺乃由緒編纂編に記とあるみ其紙漏紙拾ひて

○天王殿 山門の東上壇の北 布袋像 堂内中央西面 西面に向ふ

補遺をかく

安置に金色にして坐像 韋駄天像 後堂東面に安置に全身金色にして立像四尺計

二尺計弥勒佛と称に 左右に安置に名全身金色

四天王像 同殿左右に安置に名全身金色 左の東 多門天 西 右の東 持國天 東 廣目天 増長天

○大雄寶殿 天王殿の東 西面に向ふ 本尊釋迦佛 堂内に安置に全身金色 坐像八尺計 脇士 左 迦葉 右 阿難 共に金色にして立像八尺計

○威德殿 法堂乃後に西面に建る 帝王 将軍家の牌位安置に 十六羅漢 左右の壁に安置に全身金色 坐像二尺計 立像八尺計 寶殿の後 西面に向ふ

○祖師堂 北の方 南面に向ふ 達磨大師像 全身金色にして 坐像二尺計 費隱禪師牌 堂内 ○選佛場 祖師堂の東 南面に向ふ 本尊觀音 坐像三尺計 脇士 左 善財童子 右 八歳龍女 共に立像三尺計 此所坐禪堂の仏壇の左右に坐禪乃 ○伽藍堂 右乃方に向ふ 伽藍神像 倚子に憑長二尺餘 玄服漢土乃 韓 右乃に半月を撰 面身金色 一目 床あり

○禪悅堂 右堂の東に向ふ 金奈羅像 中央の壇上に安置に像 二尺計 西面 金色 所食堂 ○牌堂 選佛場乃東南面 本尊地藏 坐像一尺弐寸計 全身金色 ○浴室 食堂乃後に向ふ 高泉和尚の代建 日懸左右極信の牌を安に

開山堂 山門の内に乃 隱元像 倚子に憑紫衣長四尺計 拂子を持し厨子に安置 山下にあり 後水尾院隱元に賜へる 勅書額 堂内に掲る 勅書なり 其文に曰

朕聞臨濟之道徧行天下至天童雙徑光輝益盛唯我日域久之宗匠幸黄檗隱元琦和尚受請東來立綱宗闡揚濟道大光於國功不可磨朕屢沾法乳簡在朕心 特賜大光普照國師之號以旌厥德欽哉故倫寛文十三年四月二日

○壽藏 門内乃右面に向ふ 壽藏の文字 紺青紙に書く 隱元像 其内に安置 堂形六角にして 南面窓戸に書く窓丸し 張えの筆なり 堂の下に截石 紙をつりて 圍ふ 内に向て 内に限えの遺身 紙安置に口に書石の戸 あり戸の銘に曰 開山隱元老和尚之塔 紺青紙に書て 限えの二字に朱字 隱元碑 壽藏乃下壇の北東の方にあり 碑石和泉石高一丈計 基石亀形 白川石 序文に 繁に 略しる 其銘に曰

特賜大光普照國師塔銘 碑銘の上乃方篆書紙 大日本國城州黄檗山萬福禪寺開山 特賜大光普照國師隱元 琦老和尚塔銘 賜進士出身光禄太夫禮部尚書上柱國 太子太師中極殿大學士燕山杜立德拜撰

天生英人無位而尊 須弥花納巨浸毛吞 鞭撻龍象變化鯨鯢 東來開化澤被三根 松岡一座蒼翠惟繁 息光萬古普照乾坤

為黄檗祖乃臨濟孫 既而瑞世主張宗門 迅機電掃熱喝雷奔 既週能事疾入泥洹 浮圖永鎮正體長存

壯遊湖海洞徹法源 化網總握玄要掀飜 大哉師也名震帝閥 去來無住生死昌論 謄之仰之執不懷恩

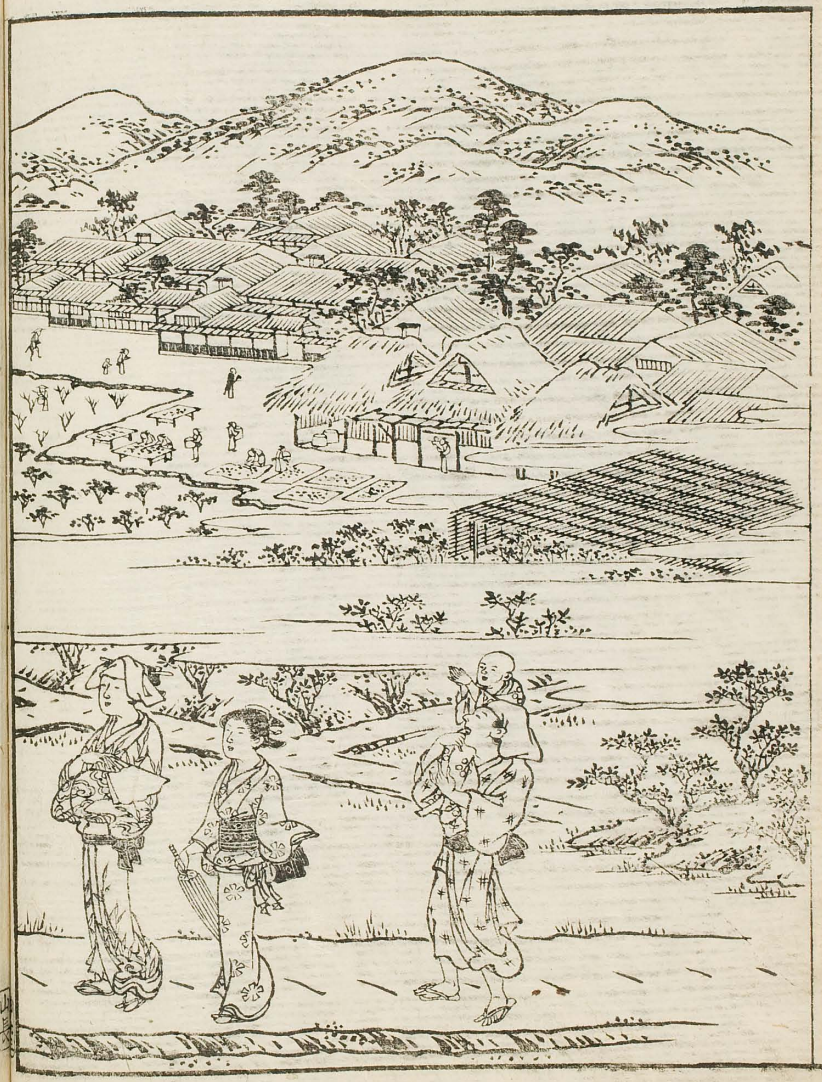
寶永六季歳次己丑四月穀旦

蜻蛉石は宇治の里大淀方の東三町計の室尼寺の北の方高サ八尺ばかり巾八尺廣さ所々凹凸四六寸ホカ六寸計ノ凹ミ如意輪観世音の像を彫ル

案するに凡人の形ハ人間ある人間人地獄ハ罪人を責ル所乃大釜ハ人間の焼る所なり

答て曰郭巨の掘出せし黄金の釜と同処

同人口を閉て黙ハ武蔵野ハ人もまれなる日暮くれて



○舍利殿 開山堂の後にある額 舍利殿と云を須えの筆 勅書額 堂内に掛る 舍利殿の額に隠元和尚に賜ふ 後水尾帝より勅書あり其文に曰

北天曽自奉南山古佛真身傳世間十萬里程霊骨暎三千年後異光斑宋皇述讃感生相源将願心欽定顔晨夕舉々服膺久彌峯永仰五雲間

佛舍利賜隠元禅師 寛文己酉十月朔日

舍利塔 銅金を以て作る 高サ三尺餘 舍利五粒 塔内に 脇士観音 坐像八九寸計にして塔の左右に安んず

同壇左 後水尾院宸影 畫図絹地法服佛長二尺八寸五寸 拂子を持し左に向ひ給ふ 土佐将監の筆 同壇右

韋駄天像 二尺七八寸計 畫図絹地立像

○蔵經印板庫 佛殿の巽山上二町計にあり 一切經及び諸論釋の印版を蔵む 蔵經彫刻の本願は鐵眼和尚なり 寺は攝州難波にあり

普化墓 黄檗門前の南二町にあり 塔を立 中頃虚無僧の祖普化良房といふ者の墳なりといふ 此地を竹林にして都鄙の虚無僧等竹を争ひ截る 尺八に竹の故なり 今荒廢す 原普化禅師は異国の人 此良房といふ者甚宗風を慕ひて専ら尺八を愛し四方に遊ぶ 世の人これを呼んで和朝の普化といふ

浮舟宮 普化より四町計南宇治路の右にあり 源氏巻宇治十帖の内 浮舟の社といふ 此の祭神 洋々たる姿 傍に榎の古木あり

三室戸山 三室戸寺の後山

有範卿墓 三室戸寺の内にあり 有範卿は親鸞聖人の父なり 本願寺傳記に見へたり

万葉
玉くしけ三室戸山乃さねかづらさ緑をいつかにあらそまし 大織冠

頓阿庵 三室戸に居住のよし草庵集に見えたり 今旧址さだかならず

草庵集 世の中をのがれ侍りし比三室戸の庵室にて
さびしさは思ひしことぞ世をいとひさて世を宇治山乃峯乃松風 頓阿

宇治 いにしへは兎道と書く 應神天皇の皇子菟道稚郎子此地に幽居し給ひ 終に薨じ給ふ 是より宇治陵と號す 延喜式曰 菟道稚郎皇子山城国宇治郡にあり 兆域東西十二町 南北十二町 守戸三烟と云 今の離宮八幡宮は此皇子の霊を祀るなり。宇治は京師より四里にして都乃巽なり 名高き名蹟かぞくあり 殊に多く見へされば略しぬ 万葉集にも千早振宇治乃わたりの多紀つ屋の阿古尓乃原と詠しものの名所も今は絶てなし

古今著聞集曰
京極大殿の御時宇治に白河院御幸ありけるに 且還御あるべきよしを申させ給ふ 然して明日還御あらば花洛は大白の方にあたれり 宇治は京より南にあたる故なり これを御陰陽師にたづねらるるに 殿下まさに宿坐にて 宇治は花洛の南にあたれば 大白のふたがりなり 殿下しばしば御延引ありて 殿下暫く逗留あり ついに花洛に還御を延引し給ふ 又賀茂をもて院の還御を延引し給ふ 殿下の御意にかなひけると云云

宇治十二景
春岸醍醐　清湍螢火　三室紅楓　長橋暁雪
朝日靄暉　薄暮柴舟　橋姫水社　釣殿夜月
扇芝孤松　槙嶋曝布　浮船古祠　興聖暁鐘

宇治橋　初めは孝徳天皇の御宇大化二年に道昭和尚これを造ると日本後紀に見ゆ
久しくこの橋は丑寅より未申に架せり長サ八十二間五尺五寸橋の東爪は宇
治郡西は久世郡なり近年寶暦六年山城近江洪水乃時に橋墮流せり
故に今假橋なり

宇治橋銘　夫遠曠紀に載せ撰者詳なり

沉々横流　其疾如箭　倚騎成市　欲治重次
人馬亡命　從古至今　莫知杭葦　世有釋子　名曰道昭
大化元年　丙午之歳　攝立此橋　濟度人畜　即固徽善
爰發大願　結因此橋　成果彼折　法界衆生　普同此願
夢裡空中　導其苦縁

壬三集　宇治橋や夜半乃波の風ふかるかれのをとゝろとして　家隆
續後拾遺　弘安元年宇治橋供養の日　亀山院御幸ありしの

紅葉を糸もゝとはらしてゝ　宇治の御幸ゆかしきかな　藤原定家
宇治橋を秦の時咸陽に都として渭橋を造て漢を便門橋を作
張良が圮橋のごとく兵書を授て相如が橋柱に題して駟馬乃車に
乘ぜし橋桓武帝乃御時架しゝ初しゝ西方は喉口とゝ
それより東ゝ宇治巽に山橋を断て二井の法師等西岸乃
大軍を驚しゝ暦に橋を引て先陣を爭ふ兼久れ乱及び
ゝびくの戦ひに宇治数田乃橋を渡り来かぞくゝ物換て星移
て豊臣乃御代ゝ三の間の水を賞し震おつる紫舟を山吹の
波をゝやゝ川夢の絶くに紅なる舟の波に泛みあるを岩間に
よりくゝ魚を拔汲の辺に掉さしめぐりて蛍の花うゝ拔興じ
景幼寇ゝして山水に清暉を拔含虹乃紅に波流に祭を
寔に南方の奇観ゝて象を拔鶏風にとりて李を造れる七
星橋ゝもいひはゞし

朝日山　離宮八幡興聖寺　宇治里ゝの東ゝて山巓ゝ朝日出て
後山とゝ
春の日乃遅ゝ暮ゝ拔紅ゝ中林に月を賞して清光川の面
照ゝ入ゝ拔銀色三千界乃面を覆ゝ

新古　楓葉を宇治川夢立こめて雲井に沈る紅日山ゝ
續古　紅葉散る山の朝日乃色ゝ時雨てゝゝ川波
續千載　紅日山楓の里乃卯花をさゝせる布と見ゝ

橋入納言公実
西園寺入道前太政大臣
龍京太政
敦輔

喜撰嶽
宇治川
興聖寺

喜撰嶽を宇治より二里ばかりして槙川村乃上にあり頂ハ高サ十丈の巖窟ありて其中ハ二丈八尺の内ハ廣さ五尺ばかりの地ありて四方ハ巖ありて苔蒸しく分明なり
東福寺
東福寺
東福寺

平等院　宇治橋の西にあり　樓門を小西向にして額を中納言俊房卿の筆と
今其跡頽壞ス　元寺院の數門の小向を掛之　白記に曰宇治殿白河通公
山寺に草創し給ふと　門の地形檢見に曰　山院の地境東を流れ
あり　西は流れ　南は山を背に　北は流れ　その間あり
やく四町あり　中は池　秀衡の造ふ覺悟あり　橋を渡り
弱冠の時　同車の後　橋を渡り　公任卿　大江匡房卿いま
ら匡房　著て　左右に　西明寺天竺の那蘭陀寺見るが如　地面
等院の門を小西向　建之位頼政自害の所之其餘の佛閣前緣見てしれい
扇芝　頼政自害の所之其餘の佛閣前緣見てしれい

埋る本の花や扇れ芝の露

當寺の建立は永承六年三月宇治殿白河通公の諸堂炎上　末代の平
記に建武の頃　新田西將　平等院　合戦の時　義貞の山崎　正成の
宇治の向　正成　敵の仏像　陣を　橋の　平等
院の　一宇も　焼ず　大厦の　平等院の仏閣
寶藏　ちの　上に　奥院の　寶藏等の小門
より本堂に至りても　乘　焼亡　鎮　焼しと見えたり
見故に本堂に初の建立より今に於て四禄の　焼ず
堂塔佛閣　巍々として莊嚴　都　冠　平棄四年
なり二重　建られ　暦二年　藤師實　五大堂
樓を建　舊　法の師　拂　拂　佳境　一雙
信長の　滅　耕石庵　宇治　東本願寺の地所　常如上人の息
宇治の　苔蒲　法の師　拂　拂　宇治
宇治の　宇治の　五十

法皇堂　宇治の町人家の間にあり本尊觀音立像一尺餘之外云むう
釣月　横嶋の巳の地名なり今詳　所四面　東宇治川
源の紅あり是故に月を愛　一雙の勝地　古人此地
賞して釣月と号く　伏見の拂　拂　佳境　一雙
れ地　天正元年　義昭公信長に　墨を築き
これを　城　信長の　耕石庵　宇治の東本願寺の地所　常如上人の息
信長の　滅　宇治の　苔蒲　法の師　拂　拂　宇治
宇治の　宇治の　五十

栗子山　宇治一の坂より　坪の方十町ばかり　山　
判官源義南都の大衆と戦て勝利　滅　
て落首と

なるほど法師栗子山　ちぎり切ていが物具をとられぬらん

神明宮　右の山にあり故に神明山　もと伊勢内外の兩宮　の像
雨乃宮　風乃宮　社　住吉の　稲荷の　天乃　
山所乃　勅請　刺史　服部　冠　後章　
所過ぎ　化人　現し　形　相を　行者　
地に神明を　勅請　天下　倍安　恭　
失ふ　朝廷に　奏し　勅　滅　造営し
変易なし　延喜四年　社地の方　境九町四面　

大宮
天神
大堂

田原
栗林

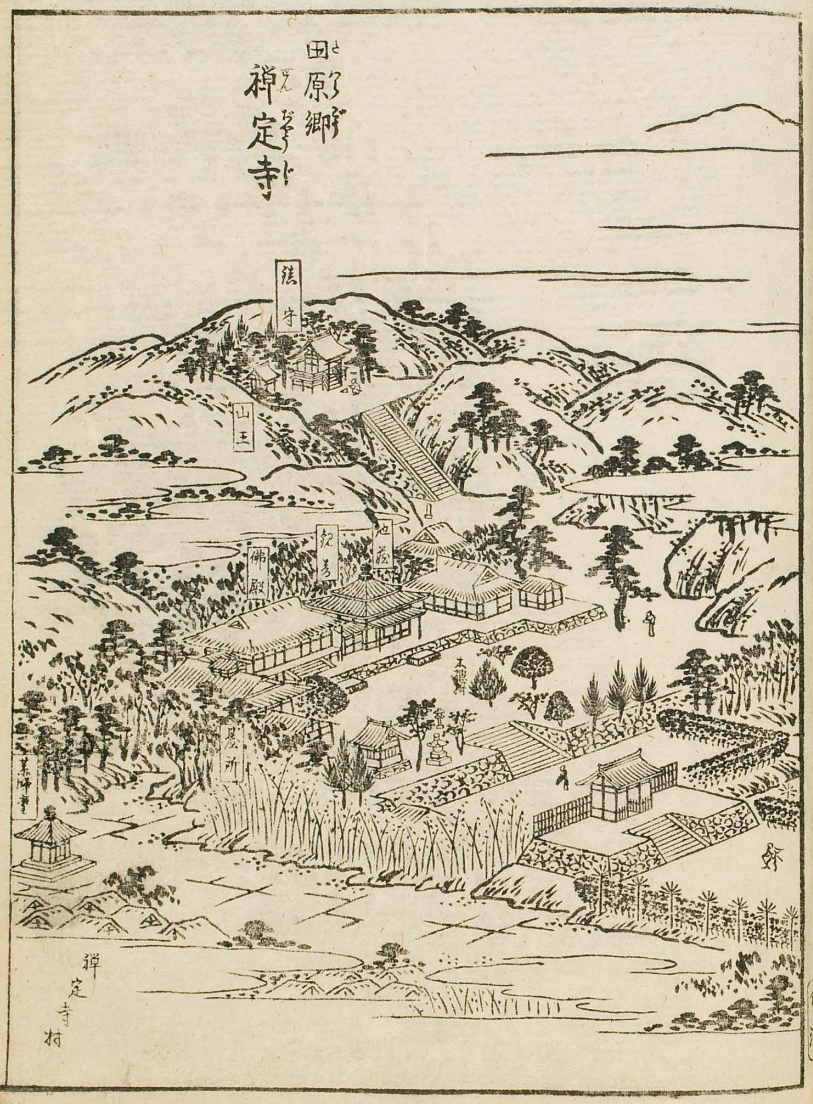
田原　宇治橋より北の方二里ばかりにあり此所綴喜郡うりとうへ
岩本　禅定寺　熟田　平岡　大道寺　糠塚　南　荒木　名村
府郡　郷　口　荒中　名村
より此所地四面山にして黒乃方に郷中都會の地にして
商人多し又素店多しあり
大御堂　荒本村民家の小あり茅葺乃堂にして額に普門閣と書し
禅定寺　月舟和尚の筆なり本尊は十一面観音立像八尺計
此堂乃形東西に長くして廣し大仏堂と号し又丈六小寺あり
除寺と号し此堂を大仏堂と号し又丈六小寺あり
中より古代乃
瓦石出るなり
八幡宮　田原皇子乃神廟の上にあり
小社　祭神石清水
三宮　平岡村民居の西南林乃中にあり祭神詳なし此土人生土神と
例年九月一日祭礼一基あり
亀井山真言院　岩本村民屋のあり戒壇の上にあり真言宗にして本尊
本尊佛は運慶の作立像三尺計
亀井　旧所乾乃方にあり相傳
弘法大師の設し所なり
鎮守　旧所ふあり祭神四所なり
祇園　稲荷　八幡　天神
乃内墓は弘法大師
時中院通村郷より賜
宝は大師所持し
鍬村あり近世再建乃
題　古寺再昌の詩
古代の林とこめてたりしん深花芳草ふるもしれいとこ

普陀山禅定寺　田原郷中禅定寺にあり禅宗曹洞派なり陵地山上
にして西ふの人後ふの峯あり佛殿乃額に図通閣と書
して月舟乃筆なり本尊十一面観音は定朝乃作にして同作共に厨子ふ安置
脇士は文殊普賢長三尺二寸計にして同作共に厨子ふ安置四天
王像長四尺計にして作乃
帝代の霊場にして應験いちじるし
地蔵堂　佛殿乃右にあり延命地蔵尊坐像
五尺ばかりの堂初免ある所は西乃方二町ばかりの今地蔵溪
あるいは水溪とも号し
當寺は大厦にして大門四と号して西乃方
一町餘にあり四隅宮あり
傍あり　内墓を平宗上人
真言宗乃都東大寺より
中興は曹洞乃和尚にして今のごとく再建

巖平山龍安寺　洞郷名村の民家ふの方にあり禅宗曹洞派にして本尊は
千手観音立像七寸計内墓は道元和尚
慶安年久荒
あり傍ふ近世再建と舊地は此所の異の山四町ばかりにして奇岩
通元和尚経王坂
大岩原と号し又山上ふ経塚と号する所あり
所

寂光山善福寺　旧所民家乃南の方にあり浄土宗にして本尊は某師仏坐
像三尺ふ寸厨子小安置し十二神将外壇ふ安置共に作
こしらえ光明山寺の本尊なり
勝れて絵物なり

煮栗焼栗林　は郷名村の南ふあり由緒は未編ふ又人うしなひ出るふ暑しき
今ふあるうるわく焼しるなく煮生ちるこ城七不七義の其一なり


田原郷
禅定寺
禅寺
山王
紀之
佛殿
禅定寺村

猿丸
猿丸社
江別乃

行者
壺
行者堂
白堂
人仏
勝ケ
石界石
村

鷲峯山
行場
平石
滝
陣
安

宇治白川
白山
太
権
現

金色院

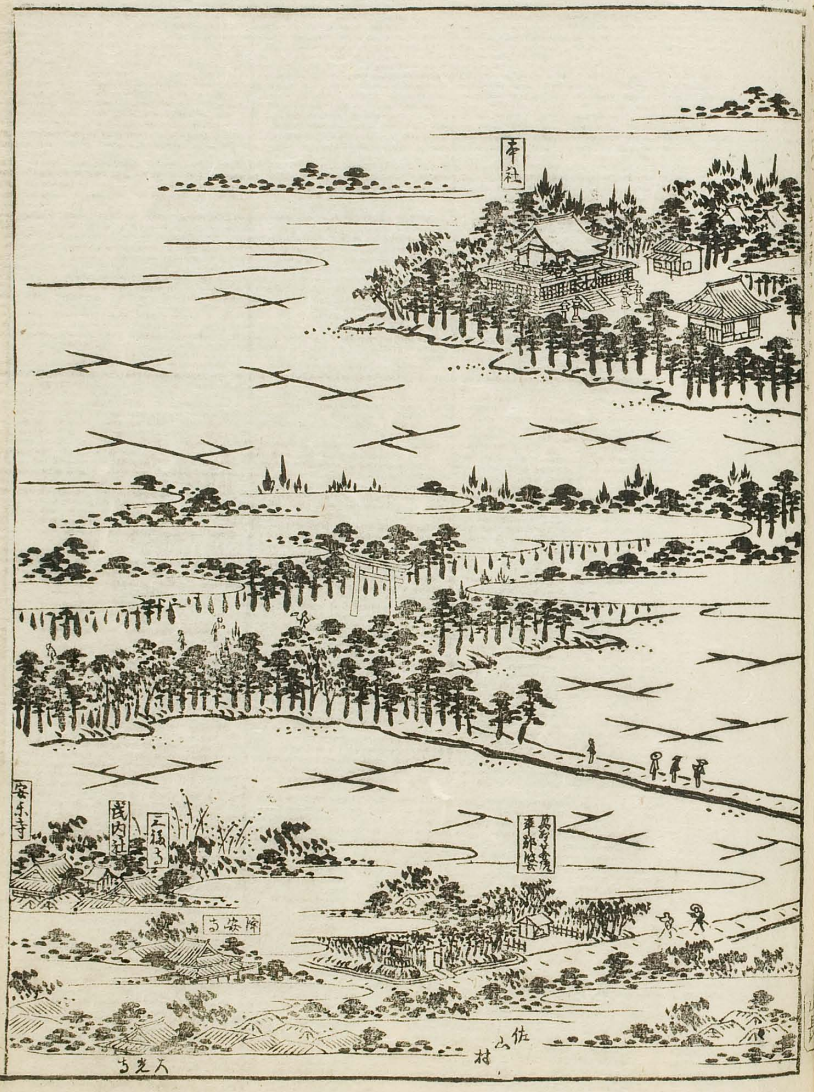
巨掠堤　大和街道にして伏見豊後橋より巨掠堤まで凡五十町乃堤なり
秀吉公の時築かれしいみしへを飛て流れしと堤堤巨掠堤なり
初めは宇治川乃ながれ落入て西の方伏見川流乃東のそはに沿て
合し潮くるゝ一面の入しいみしへ乃大和屋ハ本幡里より囲之築成
紐て宇治橋反歩ほ一之坂成越て巨掠の南
廣郷に続く

巨掠神社　巨掠里街道の西にあり延喜式に出る祭神　春日明神　若宮八
本社のあるを白ふあり土人生土神と例祭八九月十日　神輿
一基あり傳へ云当社をつゝめ多る所の神賞罰厳敬て社地
所乃一村を採ふも神崇嚴しきゆへに他所に遷し今の神成祀るなり
和州名所の内
名寄宇治山乃紅葉の色をとゝ武をとゝの森れ葉つゝかさよ　左近

伊勢田神社　巨掠乃押伏勢田村にあり延喜式に出後世梵天王社と称に
土人生土神と例祭八九月九日なり
栗隈天神社　伊勢田乃巽大久保村にあり順和名抄載るなり久世郡栗隈
里是なり栗隈郷名ハかゝるしのゝくも神號なゝいみしへの義成用
称なり栗神天満天神例祭九月八日　当社乃及ひ異なり南山城郷ハ五
て天満神の社多し是則延喜式に出る神代の天神なり天神ハ百富の内
なり土人ハ是を辨をしてみな天満天神と称に綴喜郡天神森乃
やしろハ類ひなり　○古ハ所ハ栗隈之宅とあり所ハ枕小倉抄しかまりなるふ
あたふのくらふ女帝宛ふとなる成なるそとある
末本　山ゝを乃田ゆふとなる女帝花我ひとりれとなるそ鳴た　長能

七ツ塚　大久保民家乃西之町詰ふあり仏所ハ小塚七ツあり其間二三町成
開つ四方なる田畠ふして年々減少をとゝ人ゝも考怪あり成
りて家壞さ

極本八幡宮　大久保乃西の方二十町なり佐山村の林乃中にあり林中東西
二町　餘南北二町　森なしく大木多し　系神石清水遊郷
佐古　市田　林等乃生土神しゝ
例祭八九月九日　神輿二基あり
放生川　今埋んで田しゝ
八幡宮鎮坐　記ふ曰山城國久世郡三郷村極本八幡宮ハ　清和天皇貞観
貞観乃教和尚宇佐八幡宮成男山ふ勧請しゝ　附録郡の
神職本工頭橋良基　勅なりけて尚宇佐八幡宮成男山ふ勧請に神殿と嘗なる
其後社三郷乃静境を愛して侵所とるさんく構前成家宅人
是より男山ふ詣とる来日なりして怠る来なし又四隣ふ民暮ひ繁り
て武戸軒を連ね豊饒の地なるゝ古ふみ西乃やう大樹乃
極本あり梢高くして枝葉を遠ふ広れをゝれ一ツの青ふこのふし
時ふ崇徳院市宇天治二年の二月男山鳴峯より毎夜金色乃光
発して仏捕を照を一七日の後仏所乃役人橋氏乃支族ハ時ふ変をる
八幡宮仏地ふ勧請とゝしゝの霊験ふ感ふ朝廷ふ奏聞しゝ
神光瑞現乃地ふ神殿成建立し極本八幡宮と号し奉るぬ又
二源院れ應保二年ふ勅願の所祈あるゝ勅使成立られ当宮ふ勲
一等成進めゝく極本一品宮とゝ号しゝ人去のゝるゝ後祇殿成造宮
ありて橋氏をゝく宮司とゝるしゝ人ゝを又三郷の中ゝ五畑乃神
宮寺あり僧侶朝夕の法楽勤仕怠慢なるしとゝゝ右五ヶ寺とゝハ
西方寺　三福寺　泉福寺　安楽寺　蓮寺


本社
安楽寺
茂内社
二福寺
佐山村

極楽八幡宮
佐山村
興聖菩薩
卒都婆

○西方寺　三綱乃内ニあり久壽年中如一上人の開く所之本尊阿弥陀佛
ハ定朝の作にして坐像二尺餘之又如一上人自作の像あり
○三福寺　ハ所ハ不詳ス。興聖菩薩ハ一生の中五百寺を造営して自
一基乃平都婆を立ル　神牛石　此所ハ黒色にして形牛のごとく形下
今醫寺にあり　ハ西京あんぢ川ハ必ず此流をくム
○淨福寺　佐山ハあり本尊観世音ハ安阿弥乃作にして
立像二尺許
○藥蓮寺　林村ハあり本尊藥師佛ハ定朝の作　神劔　此ハ玄男ハ
三條小鍛冶乃作　獅劔　此寺にあり寛正年中修補
長九寸五分　かへて年號を記ス
○安樂寺　右ハ所ハあり本尊ハ藥師佛ハ尺二寸作詳ス　此寺ハ
後二條院の母后西園院基子公乃本願あり
興聖菩薩殺生制誡塔婆　佐山東の口ハあり今土中ハ壓もて
現る所少方缺あり
指月塚　大久保の巽平河村民家乃東南ハあり　此所ハ月見の樓
あり　所あり封地冷泉高堀あり　土人塚に縁を結び
考へあるべし。城村乃中ハ家あり。政所城乃ごとく家多し後人
日所乃ごとく大和街道乃東方ハあり形有ハ通て伝れ
墨官家送葬の時車塚
塚あり墨則葬埋れ塚
うるべし　由緒なし
鳴嶋　車塚とハ車塚の小さあり　車塚多し土人曰寛文
字丑の方ハあり　梶塚　年中ハ田間より長五尺餘の骸骨を掘出せり

久世神社　大和街道久世の茶店の西ハ一町餘ハあり延喜式神名帳に
載る久世神社是なり又万葉集ハ人丸ハ永し山城の久世
乃やまろの草ハ多くそ
三田坂　久世の南十四五町ハあり大和街道乃中ハあり此所寺田領乃ハ
号坂ハ延喜式ハ久世郡水戸神社を
足ハ号坂人考あるべし
久世鷺坂　久世の西ハ山上ハあり仙覚抄ハ曰鷺坂久世郡ハあり是則古
大和街道ハ到ル　久世の警坂ハ原野なり古人和歌ハ詠ル
御集　雪ふまぬ皆とうへて白妙乃鷺坂ハ山れ松も枯ら
夫木　山城の久世郡の茶店のそばなる玉ぬきあんぬ風の吹く　定家
小笹峯　此所ハ詳ス
堀川百首　白雪ハ鷺坂ハ山を吉そへて小笹の峯ハ雪降ハ
長池舊跡　長池村民居の東小二町計山の麓ハ池の形南小二町餘東西二町計ハ今
悪地ハ田ハ小ハ遺ル昔ハ悪地ハ人を害ス辺の人民ハ
法ハ祈ル化人来りて蛇ハ斬て素平ハ蛇の尾の中に
剣あり是ハ拔て納ル　今布留剣と号て神寶あり

冨野天神宮 長池村の西冨野民居の艮林の中にあり又御靈社本社の南にあり已上土人生土神とす例祭ハ九月又日神輿一基あり

水主社 冨野の西十町綴喜郡水主村民居の乾うしろ森の中にあり延喜式神名帳曰久世郡水主神社十座並ニ大月次新嘗就中水主坐天照御魂神三座同しうを説らく山背大國魂命神二座新嘗祭あり預るとも云社家説曰加茂皇太神宮別雷神なりとそ神名帳に載所と相違を土人生土神とす例祭ハ九月二日

白釋迦堂 水主村人家の間にあり本尊釋迦佛ハ聖徳太子の作にして立像長さ三尺許此本尊を土人白釋迦と称す中頃荘厳なしとろへしかバ此所の民俗白色にて彩るより此号ありと云傳ふ此地ハ後に俊乗坊重源上人乃宅地にして累代乃本尊なり上人南都大佛殿再建乃為勧進圖國のときハ此所より發足ありしとなり

十六松 長池の南大和街道の東側にありむかしハ大木の松十六本あり今ハ絶て纔に存す

椎尾山 中村乃艸市野辺乃東にある山をいふむかし光明山寺此所にあり今ハ廢せり

椎尾瀧 同所山中にあり一名唐櫃瀧ともいふ

梵天宮 市野辺の南多賀村卯辰の間山上にあり竪額鳥居にあり梵天王祭神詳ならす是則延喜式に載る高神社是なり今乃社號ハ土人誤り来るとみえたり此所乃生土神とす例祭九月二日

地藏池 玉水の小堤の傍にあり名義詳ならす中頃池の邊に石地藏を安置せし故なりとぞ

玉水井 長池より南一里半にあり綴喜郡に属しぬれども京都に補遺して玉水里の山の麓にあるを玉水といふ是大和路の後人準似とし人よりて実ハ此井より山の方路乃中の南にありて鶴橋あり此橋の東十間ばかりに小萩の下に清泉ありて此玉水といふ傍に石垣今猶ありて井を堰ありしかども今ハ絶えて漏出るといへり此所街道筋なり

色葉集曰 山城に井堤乃わたりにあり玉水といふ所ありとそ 玉水とハ井堤乃水をいふなり玉もかとハ人をゆかしの人色紙手にむすびてのむ水。此水をかるくとおもふハ玉の井とも称す

千載

冬されど行てに人のくまぬしも氷ぞむすぶ玉の井乃水　藤原成家

玉吟

さくらしも今ハみくさの我おもひ螢とぶぞ玉乃井の水　家隆

堀川百首

玉の井にさきる我こひし山吹の花しそまれぬさし蛙なれ　師侍

井堤左大臣旧蹟 玉水里の巽三町ばかり石垣村乃南上村の西山の林藪の中にして土人上村といふ西南晴らる高燥の地あり是その所なりとぞ南の方に礎石あり池の跡あり墓とも石垣猪石今も存す所くに残り是旧しき諸兄公乃旧趾にして井堤寺の址なり乃字を大門といふ

家集

春ふかく井堤の山吹ちるときも蛙の聲ハかはらざりけり　貫之

家集

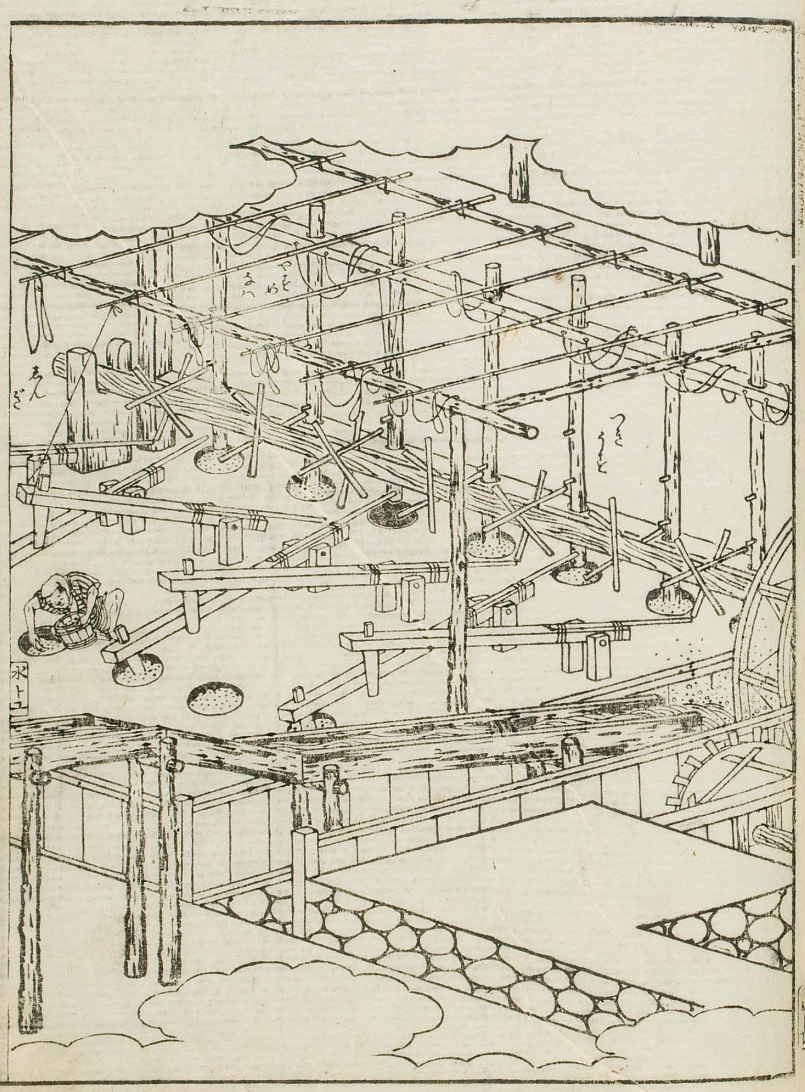
さくそやむ年ハへぬれど此ころハ井堤の山吹盛なるらん　忠見

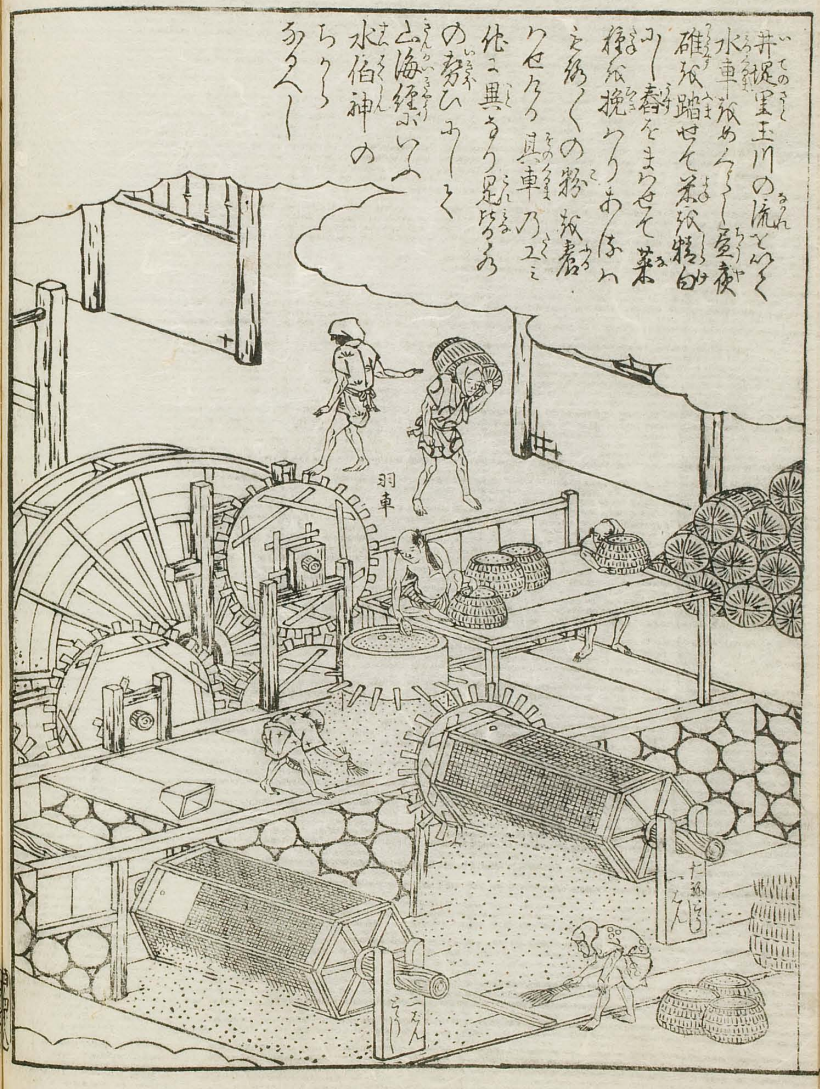
井堤川 あるひハ玉川ともいふ上井堤乃卯辰の方山中より西に流れて木津川に落入る今玉水の南乃川是なり

花ぶかき水も清光乃玉川や　蕪福

井堤里
橘諸兄公舊蹟
玉水里

玉水も
くるれとさくら
咲かな
吾東





井堤里玉川の流れ
水車紙あらく
碓紙踏せて茶紙
白
しゅ春をまらせて茶
紙挽
紙書
仕こ異ちう足
の
海
水伯神の

井堤山
風穴
玉川
有王芝

山吹や
落椀
流れ
里の
川

句空

井堤鮭舊趾　玉水里乃東の方ふあり今田とうに山所乃字を風呂谷とよ
井堤茶藨舊蹟　玉水の東乃ゐで井堤里ふあり又玉川のあ岸ふ植しう
無名抄ふ見へさう委を茶藨ふあり

御集
山吹の花れたるうきみひとをあしきまうぬ去の井堤乃里人　順德院

壬二集
ちるなりしと井堤の里人れむもれてかくんとゐれな　家隆

井堤中路　井堤里ふあり古乃大和大路うう
春日社　井堤ふ上二町計ふあり社所乃藍のゐあり寺号詳ふ次

名寄
人去とゐ公へうふいそのをを月ふう井堤の中乃　中務

井堤山　上井堤のゐゐ乃井堤山ふ放り
井堤石橋　井堤山ふあり
名寄
井堤の山とそをうたふうぎう巣れ白を立ふへうそ　好忠

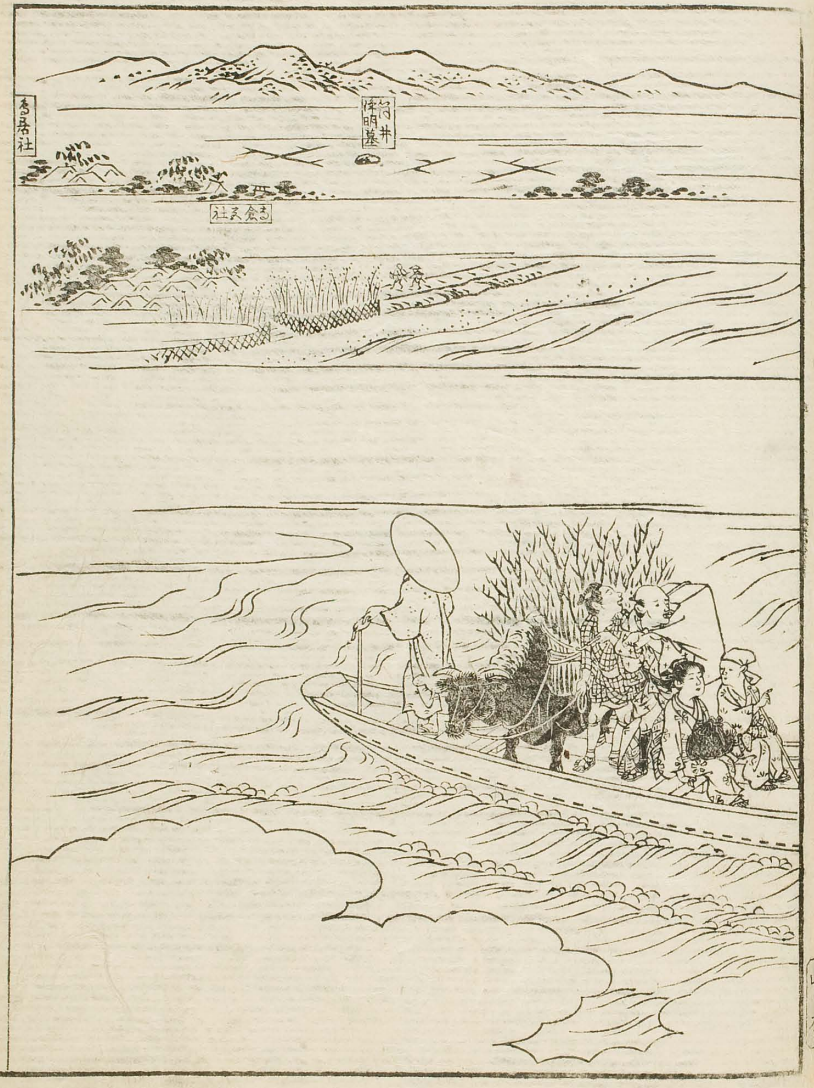
哥枕
西ゐ井堤の岩橋うう中て不もううと嘆ふ歌を　後人考

井堤寺旧跡　井堤山ふあり冷泉家記曰小野小町六十九歳ふて井堤寺ふ於て死をしと
光廣卿百人首抄曰小野小町のむかうる所ハ山城國井出里なるうん可考
下馬石　春日社の下坂落左乃ゐうふあり下馬乃字截石の面ふ鐫彫弘法
乃筆ふうらと人ハ山かうう寺院多し岡基舊蹟紀矣を
右王芝　井堤山の南乃谷ふ當郡ふ八町本一里餘ふあり其地右乃山脇う
方四町計乃芝生あり右王の名義詳ふ次又右王谷ふ
風穴　井堤ふ右王芝ふ至ふ坂乃中間之町とうれ大岩あり
去ふ放風穴とう田巷詳ふ次

藪渡口　大和街道本條川乃渡口之玉水の南七町とうれ南ハ花園社師法經
て大和國歌姫ふ至ふ道ふ西京ふ及び都ふ出ふ隆寺等の街道之
萩の渡口の東乃堤奈良道の左れ里うれ所ふ光明山寺ふ居
鳥井　あるゆへ名うて上古の佛閣ふ多ふ居放ふ多ふ例あり今摂列四天王寺ハ別勝屋ふ
光明山寺舊蹟　石垣村の南綺田乃ゐうふ山上ふあり新ふ尽しく荒廢し
て伽藍乃跡存ふ其地ふ上ふうく蓁ふう十八町の坂涌
あり其中間放國見嶽とう山所南北ふ及び西乃方晴ふうて
近世ふ地ふ観音の像現しゆへ故ふ堂放造ふく安置し國見観音と
稱とう法仏乃莫乃行ハ平地南面ふて おみ溪川あり光明山寺乃開基
詳ふ次一説ふ仁和寺の寛朝僧正開くとう
金葉　僧都頼基　光明山ふ登てぬとゆてはるうる

ううやまう浮世を出ていう斗ふ人ふう見ふ月をうう　橘紀元

法とうふ面へやりう月新の人ふう見ふ岩放弱てそう　僧都頼基
名産　上狛下狛兩村あり委を お編ふ見へういゆへハ此所ふ瓜を多く作りて
狛里　拾遺
さうあるくなるある瓜のつうそも立やうう狛れ見もう　三位國章
玉吟
五月雨ハうう瓜を泉川狛山見へを色ぞのつれふ　家隆
夫木
山をを新ふ月をしう見へはるハ狛野の里乃煙うう　公任
神童寺越　狛里の良ふあり四面ふて中ふ右野神童寺あり則神童寺瓜所乃
名ふ立て住還道あり笠置放經て伊賀へ上野ふ出る


多賀社
竹井
俳明墓
社天倉
竹藪

藪の渡口
竹俳古
老のさ名
ゝ人の
ことたふ
和歌
よろは
代
をめし
祈の
つる
式
後成

薪村 淀大橋より巽の方二里許にあり其間に村里多し大橋西爪より西津。生津。門口。奈良。上下上津屋。[illegible]東上津屋。[illegible]岩田。岡村。山王。等の民家成東西にあり新しい街道成通ふて薪天神森に至る是則大和街道なり以下の載ふい水之乃西にあり地橋[illegible]十町餘にあり地橋[illegible]して茅ヶ本津川を隔て薪村に通ず紙[illegible]紫[illegible]紫[illegible]西に名高し

藥師堂 薪の坪二十町計神南備山の麓にあり本尊藥師佛の長覚大師の作之坐像三尺餘此堂[illegible]めり神[illegible]の上にあり近年[illegible]遷す

天神社 薪の西に雙て天神社[illegible]此所[illegible]心懸に至ては薪の乾南に至て[illegible]興戸南北高本越津菱田僧房祝園土師成經て大和哥姫に出る

酒屋社 南興戸民居乃西山上にあり延喜式に載る綴喜郡酒屋神社是なり土人生土神と[illegible]例祭九月十一日

郡塚 日所里乃長津町と[illegible]田乃中にあり上に古松あり[illegible]郡塚と[illegible]所里乃西[illegible]郡駅の[illegible]あり

普賢寺溪 興戸乃西二十町計にあり此所の總名にして溪を西より東に[illegible]て本津川に入溪[illegible]の[illegible]乃方へ大和街道あり其間の里に高本。段々良。上村。水取。高船。内田。天王村等之

都谷 段々良村乃西小五町計にあり人王二十七代継體天皇の皇居あり綴喜の都是なり城國に於て皇居乃創之

日本紀曰 継體五年辛卯十月都成山背の筒城に遷そこ此地に皇居あり[illegible]中源にあり[illegible]公向下司等倒て御調物成下[illegible]

名寄 たゝ里につゝれの糸乃久慶燈もゆくと宿にうゝぬし 家隆

白山權現社 段々良の西上村にあり此所の字成沸所内として天福の比近衛基實公乃男摂政関白基通公住ゆし普賢寺殿と号に其旧流れ世に所み滝流をは縁まこ[illegible]橋も此郷の殿舎の地なり[illegible]大沸堂を縁に[illegible]考あり[illegible]大沸堂を縁に[illegible]

天王 天王社を縁に[illegible]

草内渡口 本津川成[illegible]みて[illegible]王水に至ては此渡口を平地に出草内村を高本の[illegible]十條町に[illegible]

飯岡 草内乃卯辰の方にあり此岡いにへい至置に[illegible]の禁にあり

若王寺 下狛民居乃南にあり[illegible]寺若一王子の神宮寺之今浄土宗に[illegible]僧を守ては本尊阿弥陀佛にして坐像三尺ばかり腸古い千手観音立像三尺計又智證大師自作の像あり坐像三尺計

若一王子社 佛殿の稲荷社日所に[illegible]

傳云當寺に三井乃智證大師の開基にして古は[illegible]藍山魏々さうに最勝寺の道智和尚此寺の座主さうに此ゆに駒僧正と[illegible]若王寺の小田乃中にあり五輪高サ一丈計圓滿院に三井乃

圓滿院塔 座主之口圓滿院と称して霊号成光院

藏岡山天神宮 若王寺乃西二町計にあり祭神天滿宮

稲八間 下狛乃坪にあり民居を南に分て[illegible]

武内社 苗橋八間にあり祭神武内宿禰土人生土神と[illegible]例祭八月九日

小稲八間 南稲間とも

祝園
春日社

京道坂
堤む松乃
落葉の面
衆雲

下猶
若王寺

祝園 稲心間乃東南ふあり民居大和街道の東西ふあり祝園乃名義を神武天皇の御宇逆臣長髓彦誅滅しゆうしゝく紀川を隔て軍あり今乃木津川を竟る此所ふ於て討たしゆへ長髓彦の霊をとゝめ止ッて土民を悩を故ゆえ乃霊を祀しゆゑ鎮はり乃義するふよりて名とせり園ハ其所の民俗毎年正月初ノ申日より毎日ふ至るまで神事を行ふ其間食物を調るふ一切の物を禁し静ふ居るなりを居竜と云ふ又同郡平尾綺田ふも毎年正月九日蛭子尊廣田社へ臨幸乃時容相の異なる所を恐る民戸を閉て慎み脅を是を忌竜の神事と云子ら者を次磨明石名所圖會ふ委し此所も則齊龍なり神事ふ繋齊し所乃風俗なり

祝園社 今祭神次代實録曰祝園神ふ従五位上を授くゝ云

春日社 ハ所民居乃ふあり祭神毎日大宮土人生土神と云例系を九月廿日之一説此社祝園神なりしを

大塚 毎日社乃西一町なる田乃中ふあり由緒詳なり次高五間巡十二間あり

土師 村乃名なり祝園乃南一里ふあり土師氏の人居なる所なり土師氏の人ハ垂仁天皇の御代命十四世の孫野見宿禰ふ此所を賜ひ土師を姓と改く菅原と号ふ至ッて後能遠江ふ古人ふ土師氏の人天應元年宿禰の姓を賜ひ相樂郡乃内なり此所南園神の堺之土師の南之町計ふ山城大和の国堺あり大和の郡堺ふ至ハ

相樂

木津川い呼津加和と訓を一名泉川あり輪韓川とも上古桃川とゝ云ふ紀日本紀日那羅山なり輪韓川ふ進み到る川なり改安羅と川なり狭でられ桃川とゝ云ふ訓なり

千載古今 ゆくさにてくみてのみしるかはの水の底にしるきやはる 読人しらず

泉川橋 上古橋あり延喜式出

樺井渡 泉川のつてなり延喜式出

大智寺 木津乃大路の西ふ二町ふあり宗旨律ふて本尊文殊菩薩又服部命十四世の孫野見宿禰ふ此所を賜ひ土師氏の人天應元年宿禰の姓を賜ひ相樂郡乃内なり此所南園神の堺之土師の南之町計ふ山城大和の国堺あり大和の郡堺ふ至ハ

菅原仲実

橋を造り泉川乃橋破壊して次命なる時々老なる故川ふ里の人橋の安置に則上人大ふ賞歎して遂に寺なる上人本尊と し大智寺

誓願寺 大智寺乃南之町計ふあり律宗ふて本尊十一面観音ハ行基作なり聖武帝乃願ふて持戒の尼坐像二天皇則光明皇后乃願日本一別一寺乃国分尼寺なり

動観音 木津の南二十町斗一乃坂ふあり本尊千手観音之像ふ天計動観堂あり

荒神石 ふあり

社
供所
狩屋
祭屋

市の坂
春日社
勅記
法然上人
念佛石
神子
念佛石

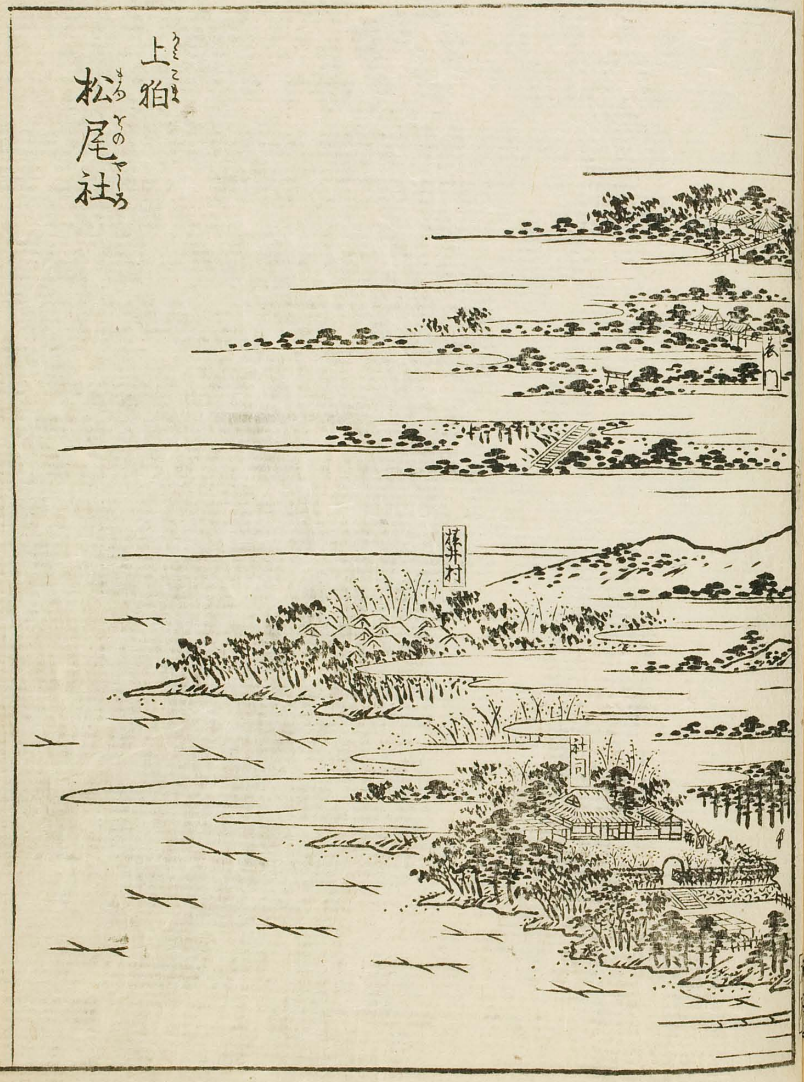
木津乃里の
南一の坂れ
かとうい山城
大和の堺する
屋ー是より
敵都へ
一里ふ道ー

をみき殺
故元
都
の
とりロ
蝶美

本津大智寺
神霊社
玄堂
方丈
方丈

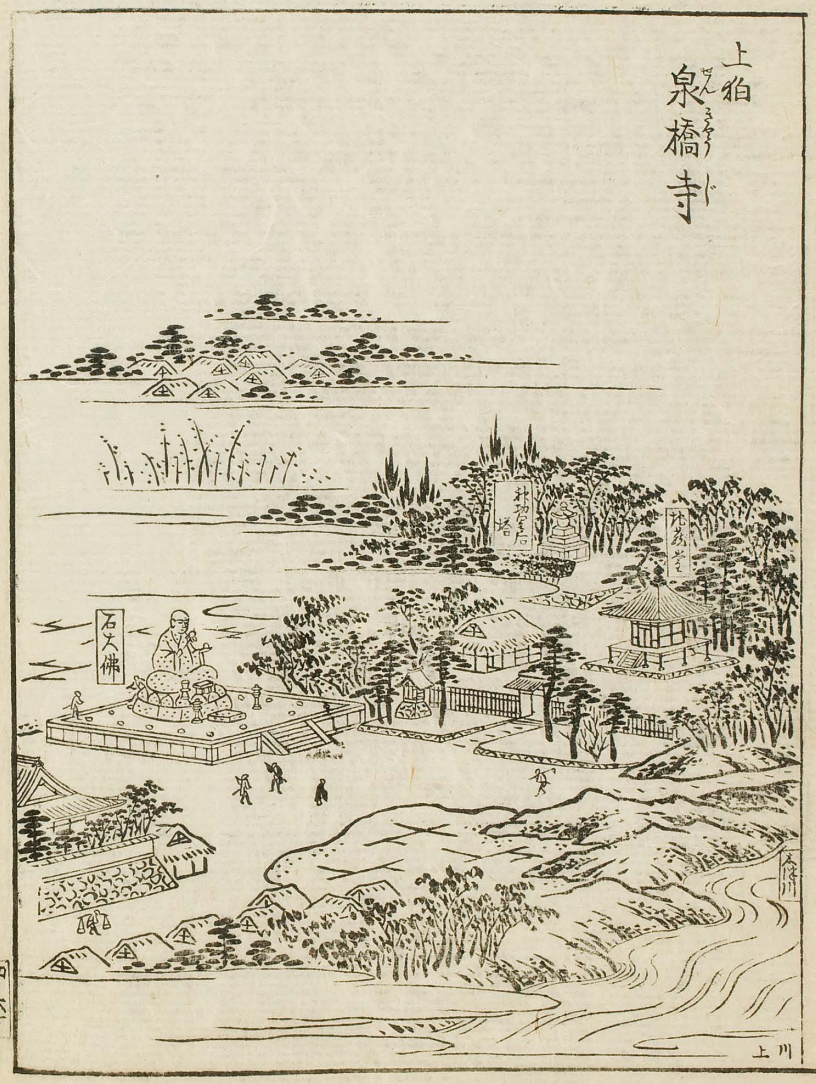
重衡首洗池
和泉式部墳
首洗池
橋
大名武士墓

上粕
辨天山
鯉鮒石
王臺寺

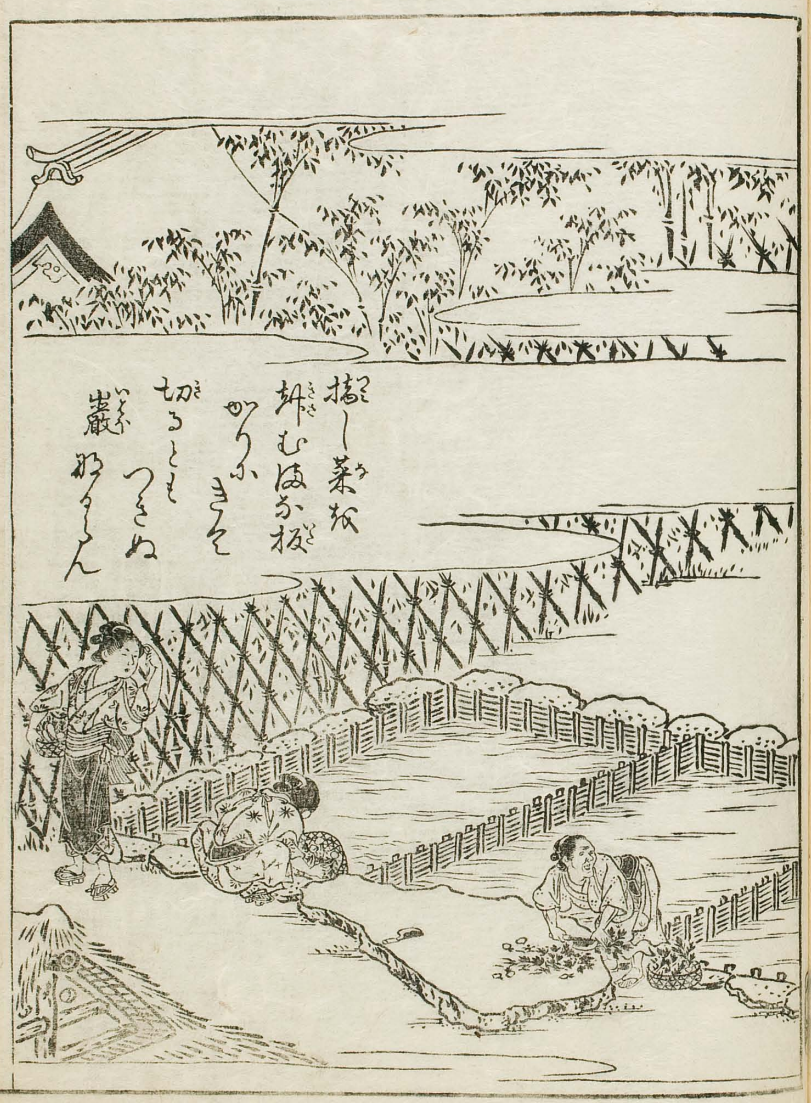

上狛
松尾社
鳥居
葦村
社司

御霊社
松尾社
御霊社

祝原
願應寺
本堂
法堂
鐘楼
宝分塔


上伯
泉橋寺
林物宝石塔
林物堂
石大佛
上川

瓶原井平尾村
菜切石
由緒前編ふ
ゑへらう


掘し菜を
切むはかぶ板
のうふ きそ
切るとも つきぬ
巌かなん

徹沙

鹿脊山不動
石経塔

甕原 本津の巽二十町計にあり いにしへハ三日原 三香原 甕原 三鹿原 等に書り中にも多く郷あり続紀に見えたり

拾遺集 都出て川を渡るにいづみ川杦の十日[illegible] 慈鎮

御霊社 瓶原に原村にありいにしへハ国分寺乃鎮守之土人生土神とす

甕原離宮 旧地詳ならず続日本紀曰天平十一年三月申午天皇及び太上天皇甕原の離宮に行幸し給ふ又云和銅六年乙卯甕原にみゆきあり同七年閏二月己卯甕原離宮に行幸し給ふと云

清見川原 瓶原岡崎村より鴨乃わたしにつゞく川原なり

加茂渡口 瓶原より加茂に至るわたし也押の方ハ南都般若坂に出る行程を一里ばかり川上艮の方ハ笠置飛鳥路市坂等に行程四十町にあり其東を伊賀堺に到る南ハ奈良坂にして南都の町天益乃小川に出る其中間に民村あり是れを梅谷といふ

法華寺野 鴨乃渡の南八町ばかりにあり村の名とす民家あり

浄瑠璃寺 法華寺村乃かたはらにあり本尊ハ阿弥陀仏乃大像九躯を安置す薬師仏を安んず其後義明上人再建しまふ

伽藍開記曰浄瑠璃寺ハ山城国相楽郡本津川の上西乃方小田原にあり本朝六十四代円融院帝天元年中多田満仲源公当寺に就て精藍を創しまふ僧行基手造乃薬師仏を安置し号して浄瑠璃寺といふ荘田若干頃を納て寺とす其後六十余年を経て廃しく義明上人といふもの

あらためて勧進し仏工定朝造る所乃阿弥陀の九躯を安置しまふ当寺に安置す第七十八主二條天皇震書乃額あり又鎌倉将軍實朝公寺田一千石銅銭一千貫を納て僧侶の粮料に資とし山中に子院若干所あり實に一乃大精藍之惜らくハ年代久遠にして次第に廃し唯九躯乃弥陀の像存す故に庶民寺号をいはずして九躰仏とのみ呼るといふ

加茂郷 名とす加茂乃わたし乃南之中に多くの郷あり 北村 舟屋 茅並 里村 大野 観音寺 高田 等之

岡田山 加茂乃ふもとの山なりいにしへ此山より銅出る三代實録曰貞観八年六月十日丙寅前筑前守従五位下清原真人真貞をして山城国岡田山乃銅を採しむる使とし判官一人

加茂社 延喜式曰相楽郡岡田鴨神社とも云 加茂里村にあり平安城加茂左神宮はじめて勧請の地なりとぞ

風土記曰可茂乃社を可茂と称するハ日向の曽之高千穂の峯に天降ましし神賀茂建角身之命之神倭磐余比古乃御前に立給ひて大和葛木山乃峯に宿ましましゝよりやうやく遷りて山城国岡田乃賀茂に至り山城川の随に下りて葛城川と加茂川と會立所に坐しまして云々

加茂村にあり法華宗洛の本國寺末いにしへハ天台宗なりしと云

東明寺 後世今宗と号す

岩船寺 浄瑠理寺の末院にして法華寺村の山奥北町計にあり本尊ハ阿弥陀仏座像八尺聖武帝天平年中の建立之

願興寺 瓶原西村十町計にあり禅宗古へハ天台宗にして薬師堂山上にあり荒廃して後世東福門院再建しまふ

高雄山
岩船寺
春日
白山
西

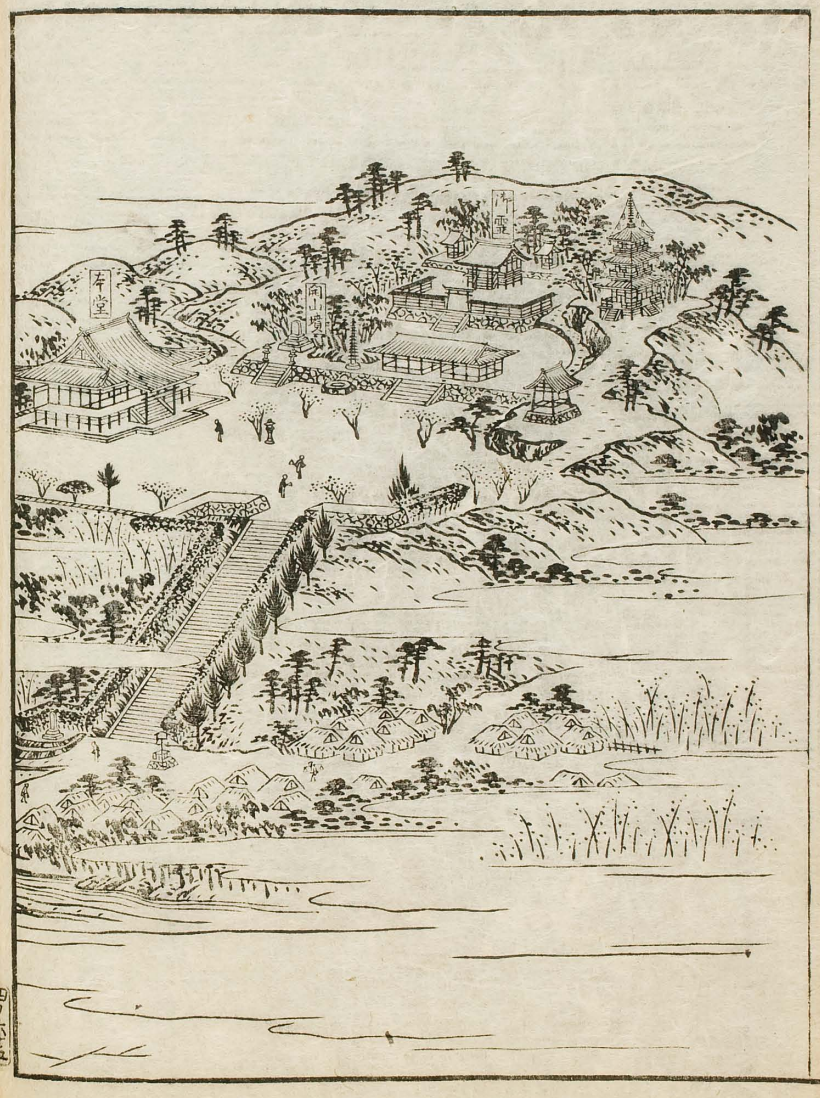
西塔尾
小田原山
浄瑠璃寺
松尾社
九体佛

加茂
東明寺

方丈

加茂社

一名日吉



笠置山麓
栗栖天満宮
本社
トリイ

笠置山名石之細圖

弥勒石 十丈六余

外 佛像石 十丈余

見吹岩

橋ヶ新石

石多石

鮮脆ヶ金眞

笠置皇居 元弘元年九月 後醍醐天皇笠置山に籠り給ひし所之弥勒石の
雙ふ其間に溝乃如あり水の方弥勒石乃崩れ至って地形たいらなり
増鏡云 後醍醐天皇笠置に籠りて猶ほ一方なる山なれば敵寄せそる
うちもの体身を枕にされて忘れぬ山なれば敵寄せそる 主上
左平記云笠置乃城と中ハ山高くして一所の砦城なり谷深くして万仞
の岩巖道狭く人ぶはたらくるるなり乃城四方にて高さ十八町岩
を切り城にして乃城を築と申すされたる山陵之敵の者多く
くたくさくのべは事城構ぐること
陶山小見山夜討道 笠置乃後ろ山所巖石峭壁にして禽獸も翔
左平記云其夜を九月晦日の事なれど日ごとに雨降ぬ夜の風
しく吹て面を向べきやうもなかりけるに又十余人の者共
をしみとうろふさして城乃ほとりなる巖の根百丈そびへて
かけたるやうに立ち上りたる二町ばかりの高さ其上に一段なる所
あり扉風の如くなる巖石なりて古松枝繁れり蒼苔雨ふるる
ちうり爰ふ蹈て人皆いかふたとべき事なりしかるに遥に上て立ちたる所陶
山荒三郎の上城さくくとして上を伺のうかがはと上なる本の枝ふかくなく
岩乃上ようおろしたるふ後なる綱をおのく引の取伏て者一乃郎所城
やとくくと皆のがれそなり下巻
諳笠置乃川上ふ飛鳥滝と云村あり山所の土民等陶山小見山の案内者と成
後醍醐帝城者しなる遺恨ふ今ふ至て笠置村と不忘して木薪の
交易綾組おもひく樂しなる足其後よりの風俗なりとぞ
有形村乃稲竈小大仏の彫の門乃中ふ数あり堀を大仏の系を城
川中ふ立る稲竈乃郷境之巽の方より南へ大和路之

都名所圖會拾遺自叙

白虎通曰京師者何謂也千里之邑號也蓋法
日月之徑千里云古昔 桓武帝建基於宇多
邑詔之曰平安城披十二之通門立九重之廣
路街衢洞達櫛比鱗次而矗矗可謂不覩皇居
壮安知 天子尊凡其山川之形勝土地之秀
異甲乎天下矣 余幸生皇州閒居洛陽而荷簞
瓢蓑笠之昊翺翔於東杜之丘壑逍遥於西南
之村野躑躅巖臨水坐於桑下憩於松陰或訪神

窟或過佛壑無不尋問名勝之地無不搜求古
蹟之幽時〻誘引畫工春朝齊隨見即摸之遵
聞即筆之矣嚮著都名所圖會六卷然而所恨
則顯古而晦今者多矣今不昭之則後世益湮
沒而不能知其蹤跡豈不多憾哉由是更補脫
漏重著五卷而續前編之後焉抑自
明王之制封畿建都邑已来到於千載治于治
國平天下之福委姓於山林娛心於烟霞俳苔
蹊於樸童探妖艷花香誘蒼浪於漁父遭清朗
明月也近復著大和名所圖會須磨赤石名所
圖會等之二書然而邦畿千里山川之美景豈
可竭筆端哉斑固之答賓戲或曰以無功受著
述家之譏若好古蹟博雅君子與我同志則所
弗享毀也皆
天明六丙午歲七月採筆於永昌堂

平安　秋里舜福　湘夕題

医無閭山房

都名所図会拾遺の後ふ志

きくかわといふはうつふ。蕃なれあふやゆしわの
ぬ多ゑ。うつ。夏ハ森の梢あをくしけり。妹と水庭
しろき暮ゆく空。厲金乃はくねさば。あをを蓑に
さもし。松あやし。六花さいふ。きまちうはの新
いつとゆし。山塚の國ハはなし。山ゆ。ともひのを
しく。ゆき流乃きうなる。賤夫のをしの田いく
さくぬ。うらよ。ねのつうれ。いやもうこけを
と。ハ方はうをうを。四乃神おきうん。あはり
きれを。宮ねふ。紀ゆ。幾万代も。平ふ乃初と

なくまをもしをゆ。ゆるくとはうしなふうの後。
ゆをうしれ殿なを。こを葉四ゑよをみをうえこれの御社。
かしの寄ゆ。みをうれ。はをゆをうく。ゆをうをる人
乃迹をくゆを。ゆをうを。をのをる。をれハをくな
うをあつ。府をあれをの。世り新はゆをう。
室あをををを。文車ゆをこはゆを。をくしゆハあれを
画のををを。今れをつのをれし。絵乃なをを。
いをあををくゆし。はゆををを信鑿。巖ゆをを。
水よををゆる心をを。先師春汐亦の教のまゆはの
ををつ。春はをくしもの六老ありをを。真菅ゆを蔓新郷

の大人乃上生部によみをまつて踏しのいとめて
たまひぬ。かし昏をさへ下し与へたまひぬるハ。その
言たまのさちありて。ゆかしく世にもてはやされ物と
なりて。またうつし人のみやこ尽たるをしのいふなる
勝事。今ハそのよろこびにたへずして。拾遺名勝をあら
はし侍りぬ。もとより物のよく似たるハ画所の常なれ
ど。絶てなれども更にもいはず。雪の中に小家ある
さく。ある人のつぎしむすさ波。夜川に簑も笠もとり
あへぬ様すれし。けしきになれし川長のもとにまで。さ
きしものゝしとりつぎかきしハかりそめの跋

おほ人なん為ふいとくみしう筆はなれぬときこえぬる
ことを。はぢけりひきかへいふことしの於字。

天明七年六月望日

浪速人春朝齋竹原信繁志るす

寛政九年三月望

箱島本店

畫工　浪花 春朝齋竹原信繁

本石町十軒店
江都書林　山﨑金兵衛
日本橋南三丁目
　　　　　前川六左衛門

天明七年未秋新板

皇都書林　寺町通五条上ル町
　　　　　吉野屋爲八梓

関宿 金銀不用 箱嶋 境町

名所記惣目録

山城名勝志　全部二十二冊　異十二枚箱入
此書ハ山城國中神社佛閣の舊記古事を載此歌人英哲等の碑碣を挟百編の引書数多く詳記し稽古を要るに助となるものなり

山州名跡志　全部二十二冊
此書ハ山城國中源山幽谷神祠佛堂一宇も洩さずその由緒故詳し其存の地ハ白圍故冠して亡廢の地ハ黒圍を加て其處實を辨じ巡覧の便とせるもの也

都名所圖會　新板 古板　全部六冊
此書ハ山城國中神社佛閣名所旧跡をくはしく今の風景をありのまゝに絵にうつし畫くより家に居ながら其勝觴を志るべし

同拾遺　全部五冊
此書ハ前の名所圖會六巻の内にもれたるをあつめ又ハ其條を絵に畫き紀を改めくはしく風景を記し名所圖會附録とせり

都細見之圖　㡌中折本一冊
此圖ハ山城一國山川宮坊村里一つも洩さず人助となるて行程大小の道を分ち或ハ新所山坂奇景名所桜て渡場名追あり神社仏閣名所旧跡洲浜名々まで一宇も洩さず絵にし其所徐歩を記して凡旅人の便とし…む

都名所かゞみ　㡌中小本一冊
此書ハ山城國神社仏閣の古来未歴名所旧跡を萬為あつし出り当所の時向に洛中洛外地三條の三筋町の名又ハ辻子其名洛陽の其名々を志り二條大橋から東への名法川三条橋…の名所を記す旅客の宝策とん

花洛細見圖　折本十五冊　洛中洛外神社仏閣…

出来斎京土産　全部七冊

京師順覧　全部拾五冊

都歳時記　全部七冊

京まうでん記　全部　六冊

増補新板 大日本國花萬葉記　全部　廿一冊　絹入　近刻

雜波丸綱目　全部　七冊

摂州名跡志　全部　廿冊

泉州志　全部　六冊

大和名所名會　近刻

次廣明石名所名會　近刻

東北記行　全部　五冊

西國船路記　西國船路法安丹の島　日本市法西道の記　ふりくまうん

都なごの色　絵本　二冊

山書ハ六十余及の御居城所ハ穿名し所名門所系図法城の所先主の栄衰海陸の行程訪函蔡泊神社仏閣の堅鑑名所旧法減紀しなどをすべ小水行木出石名勢表物産要まるに堂上方所名位之津津所ハ用所奴人所出入名名所名所服所所蔵之御用達具外品物の名産法山産町小法川鮎松釣地名俳優の表紀り

大阪市中真場法大名和歌名所職人商人法問答名あ所し場津法神社佛閣の堅鑑名所旧法第地産物名さ新要物名さ産蔵名商人の使るくむ

山書ハ摂津国神社仏閣のうんでう名沿法名山海産の由来名本石池井信泉地名市中川し町筋橋し場名城ハ国郡古実案紀しなど物載りくに風系を法写せり

山書ハ和泉国の山川村里神社佛閣名所旧法のらんでう国郡地名の古実来歴城表さうし古所を載に

大和の国神社仏閣実場旧法今立春し風系城法ふりして間くみその堅鑑をさうし古名物まべへて古実をうでに

摂及尼ケ崎より摂及一国の神社佛閣名所旧法今るのまく系名を法る字しりくにそのらんでう

くりく紀し古名を載舊事をもせり

東海道五十三次神社佛閣名所旧法ひらんでう駅場宿名物城まうし所名風系城

ふりし道の紀古名をさうに

雜波なごや色　絵本　五冊　大阪市中を信法表引を集物名をうんでう法ものを

武庫川女子大学附属図書館
04464986